

墨田区学力向上新3か年計画（第2次）の概要

平成 27 年度

平成 28～30 年度

令和元年度

令和2～4年度

令和7年度

前計画より前

学力の状況

p.5,42～45

- ・区平均正答率が全国平均正答率以上の観点が少ない。

(1)

(小学校)
17 / 69 観点
(中学校)
11 / 59 観点

- ・学力低位層(D・E層)の児童・生徒の割合が高かった。

(2)

(小学校)
3 / 16 教科
(中学校)
10 / 14 教科

- (1) 区平均正答率が全国平均正答率以上である観点数

- (2) D・E層の割合が40%以上である教科数

問題点

p.5,10

- ・基礎的・基本的な知識が定着していない児童・生徒が多かった。
- ・学習習慣が確立していない児童・生徒が多かった。

墨田区学力向上新3か年計画

基本方針

p.9

- ・基礎・基本を中心として、課題のある児童・生徒への知識の定着を図る。
- ・学習に取り組む習慣を確立させる。

目標

p.3～7

長期目標（令和7年度まで）

- 1 コツコツ学習する児童・生徒を増加させる。
- 2 D・E層の児童・生徒の割合を減少させる。
(小6・中3の目標値を設定)

短期目標（平成30年度まで）

- 1 D・E層の児童・生徒の割合を減少させる。
- 2 読む力、書く力、言語についての知識・理解・技能を向上させる。
- 3 思考力・判断力・表現力を向上させる。

主な取組

p.8～13

- ・墨田区学習状況調査結果を基にした学力向上の計画を作成
- ・計画に基づいた組織的な学力向上の取組を実施
- ・学習した内容の定着を図るための取組を徹底
- ・すみだSST等を活用して、放課後学習を実施
- ・整備したICTを活用した授業等を実施

前計画の検証

成果

p.5,42～45

- 区平均正答率が全国平均正答率以上の観点が増加した。

(小学校)
60 / 69 観点

(中学校)
23 / 59 観点

- D・E層の児童・生徒の割合が減少した。

(小学校)
0 / 16 教科

(中学校)
5 / 14 教科

効果をあげた取組

p.8～10

- 委員会を立ち上げ、委員会が取組を定めた。
- ふりかえりシートで学習内容を定着させた。
- 授業スタイルを定め学校全体で取り組んだ。

課題

p.17

- ・D・E層の児童・生徒を更に減少させる。
- ・学力上位層の児童・生徒を増加させる。
- ・家でほとんど勉強しない児童・生徒を減少させる。

墨田区学力向上新3か年計画(第2次)

基本的な考え方

p.18

知識・技能を確実に定着させることに加え、思考力・判断力・表現力等を育むことや自ら進んで学びに向かう力を養うことに取り組む。

基本方針

p.18

- 1 全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。
- 2 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。
- 3 学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

目標

p.23～26

長期目標（令和7年度まで） 前計画の目標を引き継ぐ。

短期目標（令和4年度まで）

- 1 D・E層の児童・生徒の割合を更に減少させる。
- 2 思考力・判断力・表現力を育み、更なる学力向上を図る。
「知識・技能を活用する力」や、「課題解決の構想を立てて実施し評価・改善する力」をみる問題が出題されている「全国学力・学習状況調査」における目標値を設定
- 3 家庭学習習慣を身に付けさせる。
「家で勉強する児童・生徒の増加」及び「ほとんど勉強しない児童・生徒の減少」について目標値を設定

主な事業

p.27～41

学力調査結果を活用したPDCAサイクルの確立

- ・学力調査により学習状況を確認
- ・調査結果から課題を明確化
- ・課題に応じた計画を作成
- ・計画に基づき取組を実施

学力向上委員長の指名及び
学力向上委員会の設置〔新規〕

校長が指名した委員長を中心として、取組・方法を定め、進捗状況を確認

学習内容を定着させる
ための教材の活用〔新規〕

授業中・宿題・放課後学習等で「ふりかえりシート」等にある問題を活用

授業スタイルの確立・実施〔新規〕

「最初に復習をし、主体的に学習に取り組み、最後に学習内容をふりかえる問題に取り組み、宿題で定着を図る」などのスタイルを確立

自分の考えを記述する教材の活用〔新規〕

国学力調査の「活用」に関する問題や都学力調査の「読み解く力」の問題を活用

家庭学習の充実〔新規〕

復習とともに、予習や自習により、学習内容の確実な定着及び学習意欲を向上

墨田区学力向上新3か年計画（第2次）

目 次

I 計画の策定にあたって

1 策定の趣旨	2
2 本計画の位置付け	2
3 計画の期間	2

II 前計画の検証

1 目標の達成状況	
(1) 長期目標	3
(2) 短期目標	5
2 組織的な学力向上の取組の検証	8
3 基本方針に基づいた取組の検証	
(1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。	9
(2) 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。	10
(3) 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けるため、教員の授業力向上に取り組む。	11
(4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。	14
4 成果及び課題（総括）	17

III 墨田区学力向上新3か年計画（第2次）

1 基本方針	18
2 学校・家庭・地域における取組	
(1) 学校において	19
(2) 家庭において	21
(3) 地域において	22
3 目標	
(1) 長期目標	23
(2) 短期目標	24
4 基本方針に沿った主な事業	
(1) 事業体系図	27
(2) 具体的な事業	28

参考資料	墨田区学習状況調査における平均正答率の推移（平成28年度から平成31年度まで）	42
-------------	---	----

参考資料	墨田区学力向上新3か年計画（第2次）改定のポイント	46
-------------	---------------------------	----

I 計画の策定にあたって

1 策定の趣旨

平成29年3月告示の学習指導要領の前文には、教育を行い達成する目標の一つとして、「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」が掲げられている。この目標は、知・徳・体をバランスよく育み、児童・生徒の「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を高めることで達成されるものである。

墨田区教育委員会は、平成28年3月に、「墨田区学力向上新3か年計画（平成28年度～平成30年度）」（以下「前計画」という。）を策定し、児童・生徒が「確かな学力」を身に付けるための「教育委員会の方針・取組」を示した。前計画のテーマは「児童・生徒に、基礎的・基本的な知識・技能等を定着させる」、「児童・生徒の理解度に応じた『発展的学習』により、更に力を伸ばしていく」の2つであった。前計画に基づき、校長は、毎年度「学力向上を図るための全体計画」を、教員は校長が作成した計画に基づいた学力向上プランをそれぞれ作成している。

平成28年度から平成30年度までの3年間、学校では、校内研修等による教員の授業力向上を図るとともに、学力向上に向けた取組を組織的に進めてきた。これにより、墨田区学習状況調査における本区の平均正答率を全国平均正答率と比較すると、小・中学校ともに上昇し、基礎的・基本的な学習内容の定着については、一定の成果が得られた。

今後は、夢や希望をもって意欲的に学習に取り組む児童・生徒を育成し、「組織的な学力向上の取組の推進」をもとに、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「自ら進んで学びに向かう力」を育むための基本方針を定め、更なる学力向上を目指していく。

2 本計画の位置付け（教育委員会の他の計画との関係）

本計画は、「知（確かな学力）」に関する理念を具現化するための計画であり、「墨田区教育施策大綱」「すみだ教育指針」を踏まえて、本計画を策定する。

3 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和4年度までとする。

Ⅱ 前計画の検証

1 目標の達成状況

前計画では、今後10年間（令和7年度）に達成を目指す「長期目標」と、今後3年間（平成30年度）に達成を目指す「短期目標」を設定した。

長期目標及び短期目標の達成状況は、次のとおりである。

(1) 長期目標

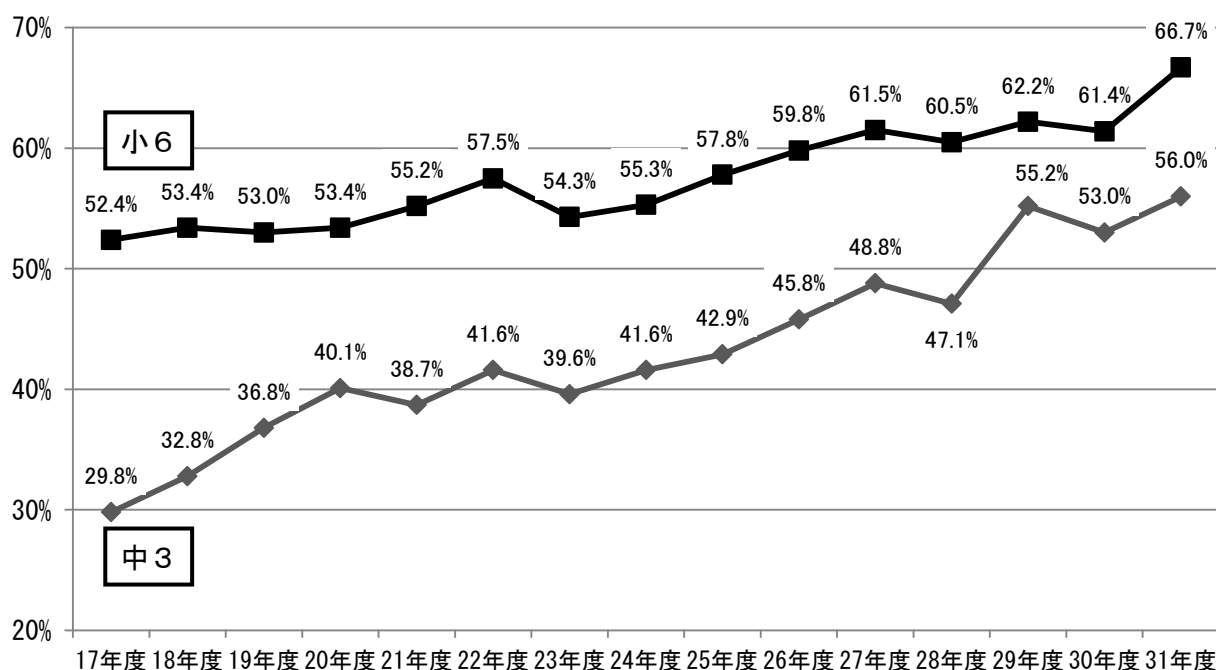
《長期目標1》「墨田区学習状況調査」の意識調査における「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合を、次のとおり増加させる。

学年	平成28年度	平成31年度	令和7年度目標
小6	60.5%	66.7%	70%
中3	47.1%	56.0%	60%

この3年間で、小学校第6学年は6.2ポイント増加し、中学校第3学年は8.9ポイント増加した。

令和7年度に達成を目指す長期目標の達成に向けて、順調に推移していると言える。

（参考）「墨田区学習状況調査」の意識調査において「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合の推移



《長期目標2》「墨田区学習状況調査」における「D・E層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

学年	教科	平成28年度	平成31年度	令和7年度目標
小6	国語	29.7%	29.3%	25%
	社会	38.9%	31.5%	30%
	算数	43.3%	32.7%	25%
	理科	42.3%	35.5%	30%
中3	国語	31.5%	32.2%	25%
	社会	50.3%	48.4%	35%
	数学	42.7%	38.9%	30%
	理科	57.5%	49.1%	35%
	英語	40.2%	36.7%	30%

小学校第6学年の4教科のD・E層の割合の平均値が6.3ポイント減少し、中学校第3学年の5教科のD・E層の割合の平均値が3.4ポイント減少した。

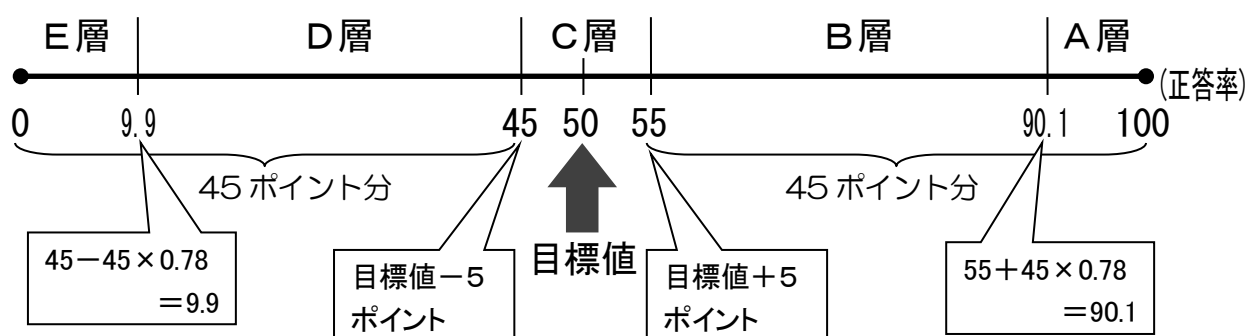
小学校第6学年の社会・算数・理科、中学校第3学年の英語については、令和7年度までの長期目標の達成に向けて、順調に推移しているといえる。その他の教科についても、長期目標の達成に向けて、D・E層の減少傾向を更に促進する必要がある。

（参考） 「墨田区学習状況調査」における各層の定義

本調査では、児童・生徒が、学習指導要領に示された内容について標準的な時間を掛けて学んだ場合、調査問題を作成している業者が、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合を「目標値」として定めている。

この目標値に対して、「－5ポイント以上＋5ポイント未満」であった場合、目標値と同程度とみなしC層とする。また、C層より正答率が高い層を、78パーセントと22パーセントに分け、C層に近い側をB層、もう一方をA層とする。また、D層、E層についても同様の考えとする。

（例）目標値が50%の場合



(2) 短期目標

前計画の期間である平成28年度から平成30年度までの3年間の取組の成果を、平成31年度「墨田区学習状況調査」（4月に実施）により検証した。

《短期目標1》「墨田区学習状況調査」における「D・E層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。（単位：％）

		28年度	31年度	短期目標			28年度	31年度	短期目標
小6	国語	29.7	★◎29.3	30	中3	国語	31.5	32.2	30
	社会	38.9	★◎31.5	35		社会	50.3	◎48.4	45
	算数	43.3	◎32.7	30		数学	42.7	◎38.9	35
	理科	42.3	◎35.5	35		理科	57.5	◎49.1	45
小5	国語	31.2	★◎24.0	30		英語	40.2	◎36.7	35
	社会	39.7	◎31.5	30	中2	国語	25.5	★ 29.1	30
	算数	35.0	◎31.0	30		社会	51.1	★◎39.5	40
	理科	34.4	◎33.2	30		数学	40.2	43.5	35
小4	国語	30.9	★◎27.0	30		理科	61.5	◎46.9	40
	社会	48.6	◎30.2	25		英語	43.5	◎37.9	35
	算数	32.7	★◎23.9	25	中1	国語	30.0	★◎27.7	30
	理科	34.7	◎29.6	25		社会	55.0	◎39.0	35
小3	国語	27.7	★◎20.3	25		数学	37.9	◎35.2	35
	算数	33.4	★◎20.1	25		理科	46.4	◎41.6	40
小2	国語	21.8	◎20.9	15					
	算数	20.4	◎17.0	15					

※ ★は短期目標を達成した教科、◎は3年間でD・E層の割合が減少した教科を、それぞれ示している。

D・E層に属する児童・生徒の割合に関する短期目標の達成状況やこの3年間のD・E層の割合の推移は、次のとおりである。

短期目標	達成した		達成しなかった		合計
D・E層の割合	減少した	減少しなかった	減少した	減少しなかった	
小学校	7	0	9	0	16
中学校	2	1	9	2	14

各学年・教科の短期目標をやや達成困難な値に設定したため、短期目標を達成した教科数は少なかったが、小学校は全ての学年・教科で、中学校は14教科中11教科でD・E層の割合が減少した。

《短期目標2》「墨田区学習状況調査」における国語科の「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率を全国平均正答率以上とする。

	読む能力		書く能力		言語についての 知識・理解・技能	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
中3	★63.7	62.4	59.7	64.1	★71.0	70.6
中2	★53.5	51.9	★71.4	68.1	★74.4	74.1
中1	★69.8	67.8	★71.1	70.9	64.6	65.5
小6	★66.4	63.5	★63.3	60.3	★74.5	74.1
小5	★73.8	69.4	★61.9	60.9	★79.7	78.5
小4	★71.6	67.9	★61.2	56.2	★74.0	70.6
小3	★68.9	60.5	★70.4	66.8	★83.4	80.9
小2	★72.5	68.8	★61.6	56.5	94.7	95.5

※ ★は、短期目標を達成した観点（24観点中21観点）を示している。

（参考）「墨田区学習状況調査」における、国語科の「読む能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率と全国平均正答率の差の推移

	読む能力		書く能力		言語についての 知識・理解・技能	
	28年度	31年度	28年度	31年度	28年度	31年度
中3	-1.2	◎+1.3	-0.7	-4.4	-2.8	◎+0.4
中2	+0.7	◎+1.6	+3.6	+3.3	+0.5	+0.3
中1	+1.1	◎+2.0	+3.0	+0.2	-0.5	-0.9
小6	-2.4	◎+2.9	-4.2	◎+3.0	-2.3	◎+0.4
小5	+0.9	◎+4.4	-0.9	◎+1.0	-1.2	◎+1.2
小4	+1.5	◎+3.7	-2.6	◎+5.0	-0.5	◎+3.4
小3	+1.9	◎+8.4	+0.9	◎+3.6	+0.6	◎+2.5
小2	+0.5	◎+3.7	-2.9	◎+5.1	-1.0	◎-0.8

※ ◎は、全国平均正答率との差が上昇した観点（24観点中19観点）を示している。

24観点中21観点が、全国平均正答率以上になった。また、24観点中19観点は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した。

《短期目標3》「墨田区学習状況調査」において、各教科の「思考力・判断力・表現力」の区平均正答率を全国平均値以上とする。

	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国	墨田区	全国
中3	★63.9	63.2	43.7	45.3	★37.8	35.7	40.9	44.0	★56.4	55.1
中2	★62.8	61.1	55.1	55.6	38.8	41.0	65.0	65.3	★54.2	53.5
中1	★55.9	54.0	69.4	69.9	71.9	73.2	50.0	57.7		
小6	★30.3	24.7	★65.6	64.8	★46.2	42.3	★45.0	43.1		
小5	★66.9	64.5	★76.0	72.7	★58.3	55.0	53.3	53.7		
小4	★60.6	58.1	★55.6	50.8	★61.9	58.4	★52.3	49.9		
小3	★74.0	69.1			★73.7	68.4				
小2	★42.3	38.6			★71.0	68.9				

※ ★は、短期目標を達成した観点（30教科中21教科）を示している。

（参考）「墨田区学習状況調査」中学校の社会及び理科の「思考力・判断力・表現力」について、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値の推移

	社会		理科	
	28年度	31年度	28年度	31年度
中3	－4.2	◎ －1.6	－2.6	－3.1
中2	－2.9	◎ －0.5	－3.0	◎ －0.3
中1	－3.7	◎ －0.5	－6.8	－7.7

※ ◎は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した教科を示している。

小学校及び中学校の国語・数学・英語については、全16教科中15教科が全国平均正答率以上になった。

中学校社会については、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値が上昇した。中学校理科については、第1学年及び第3学年は、区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値はほぼ変わらず、第2学年は上昇した。

2 組織的な学力向上の取組の検証

学校は、校長の方針に基づき、学力向上の取組内容や取組方法を定め、学校全体で取組を進めてきた。例えば、ふりかえりシート等を用いて当該学年に学習した内容をふりかえる「学習ふりかえり期間」を学期末に設け、全ての学校が取り組んでいる。

次の表は、学力向上の取組方法と墨田区学習状況調査結果の平均正答率の関係をまとめたものである。

取組方法	小学校		中学校	
	学校数	平均正答率	学校数	平均正答率
校長の方針に基づき、学力向上委員会等の組織が実施方法を決めて取り組んだ。	17校	72.2%	5校	60.8%
学年や教科の教員が実施方法を決めて取り組んだ。	5校	70.4%	2校	59.9%
管理職が実施方法を指示し、指示された方法で取り組んだ。	3校	69.1%	3校	59.9%

※ 平均正答率は、平成31年度「墨田区学習状況調査」における全ての学年・教科の正答率の平均値である。

校長の方針に基づき、学力向上委員会等の組織が実施方法を決めて取り組んだ学校の平均正答率は、学年や教科の教員が実施方法を決めて取り組んだ学校や、管理職が指示して取り組んだ学校よりも、平均正答率が高かった。

また、学力向上委員会等を組織している学校から聞き取り調査を行った結果、次のことが分かった。

- ・ 学力向上委員会を定期的に行い、取組の状況を確認し合う。
- ・ 学力向上委員会に副校長が参加する。副校長は、校長の方針に基づいた取組であるかや、取組が順調に進んでいるかを確認し、適宜指導・助言を行っている。
- ・ 効果的な取組を、職員会議や朝打合せ等で紹介し、全ての教員で共有する。
- ・ 学力向上委員会が、役割分担（だれが）、期間（いつ）、内容（何を）、実施方法（どのように）を決め、進捗確認も行い、学校全体で取り組んでいる。

上記の工夫を行うことで、学力向上委員会等を効果的に機能させている学校の平均正答率がより高いことが分かった。

校長が明確かつ具体的な方針を示し、教職員の委員会組織等を活用して役割分担を明確にし、全ての教員が協力し合うことで組織的に取組を進めることが、児童・生徒の学力向上につながるという。

3 基本方針に基づいた取組の検証

前計画の4つの基本方針は、次のとおりである。

- (1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。
- (2) 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。
- (3) 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けるため、教員の授業力向上に取り組む。
- (4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。

上記の基本方針に基づいた取組の成果及び課題は、次のとおりである。

- (1) 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。

ア 児童・生徒の学習意欲の向上

(取組)

(重点的な取組1) 宿題をはじめとする家庭等での学習

(重点的な取組3) 児童・生徒の「学習意欲の向上」のための取組

学校では、日々の授業改善や放課後学習、宿題等を通じて、授業以外の時間に学習する習慣の確立を図ってきた。また、平成27年度から、東京未来大学とすみだ教育研究所が、学習意欲に関する共同研究を行ってきた。

(成果)

意識調査(i-check)を活用した、学習意欲測定尺度を開発した。また、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合(小6は60.5%[28年度]→66.7%[31年度]、中3は47.1%[28年度]→56.0%[31年度])や、「家で週4～5日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合(小6は66.8%[28年度]→72.4%[31年度]、中3は47.4%[28年度]→59.1%[31年度])は増加している。

なお、学校からの聞き取り調査の結果、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合が高い学校は、次の工夫をしていることが分かった。

- ・ 宿題の量や内容を、教科の間で調整している。
- ・ D・E層に属する児童・生徒であっても、宿題に取り組めるように、個に応じた宿題を出している。
- ・ 宿題がすぐに終わってしまう児童・生徒のために、「チャレンジ問題」として、やや難しい問題を出し、児童・生徒の学習意欲を喚起している。

(課題)

学習意欲向上に効果のあった取組を、学校全体で実施することができるよう工夫が必要である。「家で週4～5日以上勉強する」児童・生徒の割合は全国平均の割合よりは低い(31年度の全国平均は、小6:78.0%、中3:68.1%)。

また、家庭でほとんど勉強しない児童・生徒が存在する(小6:11.5%、中3:15.0%)。

イ 家庭と地域の教育力の充実

(取組)

教育委員会報「いきいき」等を活用して、保護者に対して、学力向上によって子どもの将来の進路選択の幅が広がり、夢や希望の実現につながることを示し、学力向上の重要性を伝え、啓発してきた。

また、教育委員会は、小・中学校のPTA会長会で、各PTA会長に対して、子どもたちが学習に取り組んでいることを認め励ますなどの、学習意欲を向上させるための働きかけの重要性を伝えてきた。

(成果)

墨田区学習状況調査の意識調査において、家庭での学習では、「家で週4～5日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合が増加している（小6は66.8%[28年度]→72.4%[31年度]、中3は47.4%[28年度]→59.1%[31年度]）。

(課題)

保護者や地域の方々に対して、様々な方法で周知・啓発を行い、子どもたちの学習意欲を更に高められるようにする必要がある。

(2) 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。

ア 放課後等の学習支援

(取組)

(重点的な取組1) 授業を補完する放課後学習

全ての小・中学校が、放課後の補習を実施している。

(成果)

小学校は全ての学年・教科で、中学校は全14教科中11教科で、D・E層の児童・生徒の割合が減少した。

また、D・E層の児童・生徒を大きく減少させている学校は、授業や放課後学習において、次の工夫をしていることが分かった。

- ・ 授業の中で目的に応じて、ペアやグループで話し合う時間を確保し、グループの中で、習熟の程度が異なる児童・生徒同士が学び合う場面や、十分に理解できている児童・生徒が、理解できていない児童・生徒に対して教える場面をつくっている。
- ・ 授業の終わりに、ふりかえりシート等を使って、学習内容を定着させている。
- ・ 教員とすみだスクールサポートティーチャー（すみだSST）が連携して、個々の児童・生徒の課題を共有し、課題に応じた放課後学習を行っている。すみだSSTは、放課後学習における児童・生徒の様子を、教員に伝えている。

(課題)

D・E層の児童・生徒の減少傾向が、学校によって二極化しており、D・E層があまり減少していない学校に対して、重点的に支援を行う必要がある。

イ 学習支援のための地域人材の活用

(取組)

学校は、すみだＳＳＴ等の地域人材を活用して、放課後の補習を行っている。

(成果)

教育委員会は、学校に対して、必要な人材を派遣することができた。また、全ての学校において、放課後の補習が行われるようになった。

(課題)

放課後の補習を受ける児童・生徒の学習状況について、教員（学級担任・教科担任）とすみだＳＳＴが情報を共有し、より効果的な活用を進める必要がある。

(3) 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けるため、教員の授業力向上に取り組む。

ア 教員の授業力の向上

(取組)

(重点的な取組１) 分かる授業

(重点的な取組２) ICTを活用した「効率的・効果的な」授業等

教員の授業力向上のために、教育委員会は、職層や経験に応じた研修や様々な教育課題（ICTに関する研修や英語の指導に関する研修等）に対応した研修を実施した。学校は、教育研究奨励事業によって、校内研修の充実を図るとともに、教材研究や授業を支援するための環境整備（ICT）等を行った。

(成果)

墨田区学習状況調査における区平均正答率と全国平均正答率を比較したときの値については、この３年間で大きく上昇した。また、下の表のとおり、整備されたICTを、授業等で活用する頻度が上昇した。

● 平成３０年度「学校ICT活用状況調査」におけるICTの活用頻度 (区内の教員を対象としたアンケート調査結果)

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	活用していない
タブレット端末	53.1% (48.9%)	27.5% (29.4%)	11.7% (12.9%)	4.8% (4.4%)	2.9% (4.4%)
実物投影機 (小学校のみ)	62.8% (62.3%)	12.0% (14.4%)	6.3% (5.0%)	5.3% (3.8%)	13.7% (14.4%)

※ ()内は、平成２９年度の値である。全ての学校にICTが整備されたのは、平成２８年度末である。

なお、次ページのように、ICTに収納されている「指導のポイント」を各学校が活用したことで、墨田区学習状況調査の平均正答率が上昇したことから、ICTの活用が学力向上につながっているといえる。

● 児童・生徒がICTを用いて学力向上につながった事例

教育委員会では、小1算数「とけい」の「時刻をよむ」ことに関する指導のポイント（プレゼンテーションソフト）を作成し、学校で活用したことの効果を検証した。

墨田区学習状況調査では、毎年、時刻を答える問題が出題されている（小2算数）。平成31年度の問題は、次のとおりである。

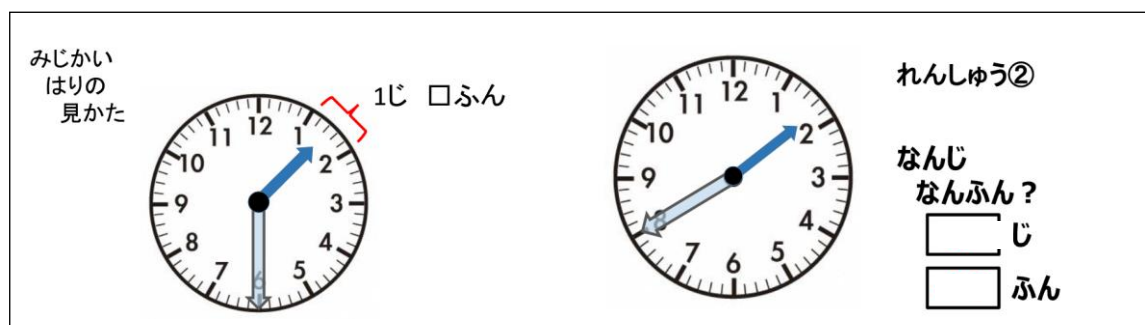
まさきさんが こうえんを 出て いえに ついたのは、4じ20ぷんでした。
この ときの とけいは どれですか。 （※4つの時計の中から、一つを選ぶ。）

また、時刻を答える問題の区平均正答率と全国平均正答率の推移は、次のとおりであり、時刻を答える問題の平均正答率は、小2算数全体の平均正答率よりも伸び具合が大きいことが分かる。

	28年度	29年度	30年度	31年度
時刻を答える問題の平均正答率	－0.2	＋0.8	＋4.1	＋3.9
小2算数の平均正答率	－0.6	0.0	＋2.8	＋1.1

以上のことから、指導のポイントの活用がみられたと考えられる。

（参考）指導のポイントをまとめたプレゼンテーション画面の一部



さらに、個々の教員の授業力によらず、学校全体で学力向上の取組を定め、墨田区学習状況調査の結果が大きく上昇している学校がある。

学校からの聞き取り調査の結果、授業において、次のような工夫をしていることが、墨田区学習状況調査の結果が大きく上昇していることが分かった。

- ・ 児童・生徒が授業を受けるときの規律だけでなく、学校全体で、教員の授業スタイルを定め、全ての教員が取り組んでいる。
- ・ 「ノートの取り方」を学級に掲示し、「ノートの取り方」に基づいた児童・生徒へのノート指導を行っている。

（課題）

墨田区学習状況調査における「学校の平均正答率と全国平均正答率を比較した値」や「D・E層の児童・生徒の割合」については、学校によって二極化している。

イ 学校における家庭学習環境の整備

(取組)

学校は、授業で学習した内容が定着するように宿題を出している。教育委員会は、授業の内容に関連のある宿題を出すよう、指導・助言を行っている。

(成果)

墨田区学習状況調査の意識調査において、「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合が増加した（小６は66.8%[28年度]→72.4%[31年度]、中３は47.4%[28年度]→59.1%[31年度]）。※ 再掲（１０ページ）

(課題)

「家で週４～５日以上勉強する」と回答した児童・生徒の割合について、本区は全国平均よりも低い状況である（小６：78.0%, 中３：68.1%）。また、家庭でほとんど勉強しない児童・生徒が存在する（小６：11.5%, 中３：15.0%）。

ウ 授業改善（PDCAサイクル）の徹底

(取組)

学校は、墨田区学習状況調査結果等(Check)をもとに、今後の学力向上の取組(Act)を定め、学力向上を図るための全体計画や学力向上プランに具体的な取組の改善案(Plan)を明示し、計画に基づいた取組(Do)を進めている。教育委員会は、「学力向上を図るための全体計画」や「学力向上プラン」の様式を定めた。

(成果)

墨田区学習状況調査を軸としたPDCAサイクルの流れが明確になった。

(課題)

計画に基づいた取組の進捗状況については、学校によって違いがみられる。教育委員会が適宜学校訪問をし、管理職や学力向上担当の教員に対する指導・助言・支援を行う必要がある。

エ 児童・生徒の状況把握

(取組)

学校は、墨田区学習状況調査結果から、児童・生徒の学習状況を把握し、その状況を踏まえて「学力向上を図るための全体計画」を作成した。教員は、担当する学級や教科の取組の方向性を定めた「学力向上プラン」を作成した。

(成果)

「学力向上を図るための全体計画」や「学力向上プラン」を全ての学校・教員が作成し、個々の教員が担当する学級・教科における学力向上の取組の具体化が図られた。

(課題)

学力向上委員会等の組織を活用して、学力向上プランに基づいた取組の進捗管理を行うことで、学力向上の取組を確実に実行していく必要がある。

(4) 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。

ア 発展的学習を目指す授業展開

(取組)

更に意欲的に学習に取り組む児童・生徒の学力をより伸ばすために、小・中学校では「習熟度別指導ガイドライン」(算数・数学)、「少人数・習熟度別指導ガイドライン」(中学校英語)に基づいて、「発展的な指導」などの個に応じた指導の充実を図っている。

(成果)

墨田区学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」を問う問題について、小学校を中心に、全国平均正答率以上の学年・教科数が増加した(7ページ参照)。

(課題)

下の表のとおり、A層の割合が増加した学年・教科の数は半分強である。「より伸ばす指導」にも力点を置き、更なる学力向上や学習意欲の向上を目指す必要がある。

● 「墨田区学習状況調査」における平成28年度と平成31年度のA層の割合(単位:%)

	国語		社会		算数・数学		理科		英語	
	28年度	31年度	28年度	31年度	28年度	31年度	28年度	31年度	28年度	31年度
中3	3.6	◎ 6.5	0.6	◎ 1.7	7.1	◎10.4	1.8	◎ 3.8	4.6	◎ 8.2
中2	6.1	5.3	0.8	◎ 7.8	4.9	2.8	0.6	◎ 1.9	9.7	8.9
中1	3.3	◎ 4.6	1.0	◎ 4.8	9.8	◎11.6	1.4	◎ 1.6	—	—
小6	9.1	6.8	11.0	9.0	9.1	6.6	1.8	1.8	—	—
小5	8.9	◎14.3	3.4	◎ 4.7	5.1	◎ 7.9	5.0	3.3	—	—
小4	13.1	8.5	5.4	◎ 9.1	7.0	6.0	4.0	◎ 4.4	—	—
小3	7.3	◎18.0	—	—	8.1	◎ 8.2	—	—	—	—
小2	17.2	9.3	—	—	20.2	◎21.0	—	—	—	—

※ ◎は、A層の割合が増加した教科(30教科中19教科)を示している。

A層の割合を増加させている学校の工夫の一つに、児童・生徒に対して、自分の考えを文章で表現するといった「思考力・判断力・表現力等」をみる問題を、テストで出題するなどの取組が挙げられる。

次ページの問題は、区内の中学校において、定期考査で出題した思考力・判断力・表現力を見る問題の例(理科)である。

● 思考力・判断力・表現力をみる問題例（中学校第1学年理科）

サクラの葉の表側と裏側の気孔の数を調べると、単位面積当たりの数は、裏側の方が表側より多いです。気孔では、水が水蒸気になって出ていく「蒸散」が起こります。

葉の数や大きさがほぼ同じ2本のサクラの枝A、Bを用意し、Aは葉の表側にワセリンをぬり、Bは葉の裏側にワセリンをぬりました。A、Bを、同じ量の水が入った試験管にそれぞれ入れ、水面に油を1滴たらし、しばらく置いたところ、水の量が次の表のように変化しました。

枝Aを入れた試験管の水の量	枝Bを入れた試験管の水の量
5. 2ml 減った	1. 6ml 減った

「枝Aを入れた試験管の水が減った量」は「枝Bを入れた試験管の水が減った量」よりも多い理由を、「気孔の数」と「蒸散」という用語を使って説明しなさい。

（正答） 枝Aは枝Bよりも、ワセリンでふさがれる気孔の数が少ないので、枝Aの方が枝Bよりも多くの気孔で蒸散が行われて水が水蒸気になって出ていくから。

イ 企業等との連携・協力

（取組）

「学校支援ネットワーク事業」を活用し、各学校に対して、日常の授業と連動した「出前授業」を提供している。

（成果）

出前授業のメニューの数が325あり、区内の学校において、全476回の出前授業を実施した。

（課題）

出前授業の実施が、児童・生徒の学力向上や学習意欲の向上に、十分つながっていない。

ウ 各校における取組支援

（取組）

新しい学習指導要領の趣旨理解のために、小・中学校の教員を対象として、墨田区立次期学習指導要領説明会を開催し、教科ごとに学習指導要領のポイントを周知した。

また、学習内容の定着のために、ふりかえりシート等の教材を学校へ提供するとともに、墨田区学習状況調査結果から明らかになった課題のある学習内容に対して、指導のポイントや教育研究所ニュース（新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のあり方や課題のある学習内容に関する指導方法等をまとめたもの）を、学校へ提供した。

(成果)

学校は、新しい学習指導要領に関する説明会の内容を踏まえて、校内研修を実施し、主体的・対話的で深い学びに関わる指導内容・方法の研究を行った。

(課題)

学校訪問等により、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた指導・助言を継続する。また、教材や指導のポイント等の更なる活用を図る必要がある。

エ 幼保小中連携の強化

(取組)

平成29年度に「墨田区幼保小中一貫教育推進計画」を改定し、平成30年度から、全ての中学校区ブロックにおいて、「中学校卒業までを見通した学習指導」を行うことを規定した。

(成果)

全ての中学校区ブロックにおいて、異なる校種の教員等と一緒に授業を参観し、指導方法や学習内容の系統性に関する協議を行い、相互理解を図っている。また、全ての中学校区ブロックにおいて、園児が英語に触れ・慣れる活動（英語活動体験）を行った。

(課題)

中学校の教員が小学校へ行って出前授業を行うことや、小・中学校の教員と一緒に授業を行うことで、各中学校区ブロックの学習指導にかかわる幼保小中一貫教育の取組を更に活性化する必要がある。

4 成果及び課題（総括）

児童・生徒の学習内容の確実な定着のための取組を推進してきたことで、墨田区の児童・生徒の学力は確実に上昇してきている。その主な要因は、学校が学力向上に対する取組を組織的に実施していることであると考ええる。

校長が教職員に対して明確な方針を示し、全ての教職員が校長の方針に基づいて学力向上の取組を定め、進捗状況を確認しながら組織として確実に取組が進行していく、このような取組が全ての学校で実施されることが重要である。また、前計画の長期目標や短期目標から、次の成果及び課題が明らかになった。

- ・ 《長期目標 1》の達成状況から、「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒」の割合が増加してきているが、家庭学習をほとんどしない児童・生徒が存在する。
長期目標の達成を目指すには、全ての児童・生徒自らが進んで学習に取り組む習慣を身に付けさせるための具体的な取組を明示し、推進する必要がある。
- ・ 《長期目標 2》及び《短期目標 1》の達成状況から、この 3 年間で、全般的には学力低位層である D・E 層の割合が減少している。
D・E 層の割合に関する短期目標を達成していない学年・教科（特に、理科・社会科）があることから、学力低位層の減少に関する取組を引き続き推進する必要がある。
- ・ 《短期目標 3》の達成状況から、多くの学年・教科において「思考力・判断力・表現力」に関する問題の区平均正答率が、全国平均正答率以上になっている。
児童・生徒同士が思考・判断したことを表現し合う活動を更に充実していくことや、更なる学力の伸長を図るための取組を推進する必要がある。

Ⅲ 墨田区学力向上新3か年計画（第2次）

1 基本方針

すみだ教育指針では、子どもたちの「生きる力」（知・徳・体のバランスの取れた力）を育むことを目指し、変化の激しいこれからの社会を生きるためには、「確かな学力（知）」「豊かな人間性（徳）」「健康・体力（体）」をバランスよく育てることが大切であるとしている。

前計画では、校長が教職員に対して明確な方針を示し、全ての教職員が校長の方針に基づいた学力向上の取組を推進したことで、成果を上げることができた。

今後、「基礎的・基本的な知識・技能の定着」や「児童・生徒の学習意欲の向上」とともに、「思考力・判断力・表現力等の育成」についても更に充実を図り、更なる学力向上を目指していく必要がある。

以上のことから、本計画の基本方針を次のとおりとし、教育委員会は、児童・生徒の学力向上のための環境を整備する。

「墨田区学力向上新3か年計画（第2次）」における基本方針

児童・生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養うために、次のア～ウの方針に基づき、学力向上を推進する。

ア 全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。

イ 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。

ウ 学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

2 学校・家庭・地域における取組

上記の基本方針に基づき、学校・家庭・地域における取組を、以下に示す。

なお、基本方針にある、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「自ら進んで学びに向かう力を養うこと」については、特に関連のあるものに、次のマークを付している。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	思考力・判断力・表現力等の育成	自ら進んで学びに向かう力を養うこと

(1) 学校において

学校では、以下に示す取組方針をもとに、自校の課題に応じた学力向上の取組を進めていく。

① 学力向上の取組を組織的に行う

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力

前計画において一定の成果が挙げられた要因の一つに、学校全体でカリキュラム・マネジメントを確立し、学力向上の取組を組織的に行ったことが挙げられる。

校長は、各種学力調査の分析結果や児童・生徒の普段の様子をもとに「学力向上を図るための全体計画」を作成し、教職員に対して明確な方針を示す。個々の教員は、校長の方針を理解し^{※1}、担当の学級・教科の児童・生徒の状況を踏まえて「学力向上プラン」を作成する。また、「学力向上プラン」に基づいた取組が確実に実行されるよう、学力向上委員会や学年会などの組織を活用して進捗管理をすることで、計画に沿った具体的な取組を確実に行っていく。

※1 「学校全体の学力向上に効果を上げている学校の共通の特徴」に、「管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている」ことが挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学 文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」 平成26年3月

「平成25年度全国学力・学習状況調査」では、通常の児童・生徒の学力及び意識の状況をみる調査や学校質問紙調査だけでなく、保護者や教育委員会を対象とした「きめ細かい調査」を実施した。

② 理解したことや身に付けたことを、確実に定着させる

知識・技能

「全国学力・学習状況調査」（文部科学省：4月に実施。小6・中3対象）や、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会：7月に実施、小5・中2対象）では、一定量の文章を読み解いて問題を解決する力をみる問題が多く出題されている。今後は、児童・生徒が語彙力や文章を読む力・書く力を身に付けることが求められている。そこで、国語の授業では語彙力や文章を読む力・書く力を確実に身に付け、他の教科の授業では、国語科で身に付けた力を生かせるような授業を行う。

また、児童・生徒が思考・判断したことを表現するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける必要がある。知識・技能の確実な習得のためには、児童・生徒が教わって理解するだけでなく、授業の終末に「ふりかえりシート」などを用いて、自分の力で問題を解き、教わったことを定着させる取組が重要である。

さらに、宿題、単元末、学期末（学習ふりかえり期間）など、ふりかえりの機会を繰り返し設け、更なる定着を図る。

なお、基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない児童・生徒が、「分かる」「できる」ようにするために、授業中の机間指導や放課後・長期休業中の補習等の機会を活用して、個別に指導を行う。基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている児童・生徒に対しては、発展的な課題を与え、更なる学力向上を目指していく。

③ 考える力や表現する力を育む 思考力・判断力・表現力等

新しい学習指導要領では、各教科等において、理解していることやできることをどのように活用するかが求められている。

授業では、児童・生徒が自分の考えをもち、互いの考えを出し合って話し合ったり、集団の中で教え合ったりする活動を充実させていく。他者の考えを聞いて、自分では思いつかなかった考えに触れて考えを見直し、自分の考えをよりよいものとして、他者へ分かりやすく伝えられる児童・生徒を育成していく。

教員がこのような授業を展開できるようにするために、教育委員会は、職層・経験に応じた研修や今日的な教育課題に関する研修を開催する。学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた校内研修を実施する。個々の教員は、区教育研究会や都の認定団体の研究会等の機会を生かして、資質向上を図っていく。

また、「図書館を使った調べる学習コンクール」により、授業で身に付けたことや日常生活等で疑問に感じたことについて、学校図書館や区立図書館等を活用して調べ学習を行い、思考力・判断力・表現力等を育んでいく。

④ 夢や希望をもち、実現に向けて努力し続ける児童・生徒を育成する 学びに向かう力

学力向上により、児童・生徒の将来の進路選択の可能性は広がっていく。学習に対して粘り強く努力し続けるには、教科等を学ぶ意義を理解し、学びを今後の人生や社会に生かそうとする姿勢を持ち続けることが重要である。

そのために、教員は児童・生徒に対して、将来の夢や希望について問いかけ、なぜその教科の学習をするのか、なぜその単元について学ぶのかを明確に伝えていく。努力をしてもすぐに「分かる」「できる」ようにはならないが、努力の過程やできるようになった箇所を教員が認め、できる喜びを感じて努力し続ける児童・生徒を育成していく。

また、読書活動を推進し、児童・生徒が、様々な人の生き方や価値観に触れ、困難なことを前向きに捉え、乗り越える姿勢を育んでいく。

⑤ 児童・生徒の学習意欲を向上させる **学びに向かう力**

すみだ教育研究所は、これまで、東京未来大学と学習意欲に関する共同研究を行ってきた。共同研究により、「周囲に認められ、支えられている（他者受容感）」「自分のことを好きだ・大切だと思える気持ちの強さ（自己肯定感）」「自分はできるという期待と自信の強さ（自己効力感）」が「学習や思考を楽しむ気持ちや好奇心による動機づけ（内発的動機づけ）」の高まりが、学習意欲を喚起し、学習行動につながっていくことが分かった。

学校は、意識調査等から、個々の児童・生徒の学習意欲に関わる心理的要素の状態を把握し、児童・生徒の学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。

⑥ 児童・生徒の学習習慣を確立する **知識・技能** **思考力・判断力・表現力等** **学びに向かう力**

家庭における学習習慣の確立のために、学校では、児童・生徒に対して宿題を出している。授業で学習した内容の定着（復習）だけでなく、次の授業の準備（予習）及び児童・生徒が自ら課題を見付けて行う学習（自習）を含め、家庭学習が充実するよう、宿題の質や量を工夫する。その際、児童・生徒に対して、家庭学習の仕方を指導する。

また、発展的な課題も活用しながら、A・B層の更なる学力向上を図る。

(2) 家庭において

学校は、保護者会や学校だより等を活用して、子どもたちが学習することの重要性を保護者に周知していく。教育委員会は、学力向上に関する情報提供や啓発を行う。

① 子どもとのコミュニケーションを大切にする **学びに向かう力**

将来、予測困難な社会で生き抜くために、子どもが、確かな学力を身に付けて進路選択の可能性を広げられるよう保護者が支えることが重要である。保護者自身の経験を踏まえながら、夢や希望の実現につながる「学習に取り組むことの大切さ」について話をし、励ますことにより、子どもたちの学習意欲を高めてもらう。

子どもが経験していることや考えていることについて、子どもと保護者が一緒に話をすることは、子どもの学力向上に寄与しているということが、先行研究から明らかになっている。^{※2}

※2 「学力が高い傾向がみられる子どもの保護者の行動や考え方」に、「子どもと、『学校での出来事』『勉強や成績』『将来や進路』『友達とのこと』『社会のできごとやニュース』について話す）」ことが挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学 文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」 平成26年3月

② 物事をあきらめずに挑戦し続ける力を育む 学びに向かう力

先行研究によると、幼児期に「物事をあきらめずに挑戦する」といった『がんばる力』が高い子どもほど、小学校低学年で「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」などの学習態度や『がんばる力』も引き続き高い傾向にある^{※3}とあるように、集団の中で様々な人と関わり合いながら、目標に向かって頑張る力などのいわゆる「非認知的能力」を高めることが、学力の向上に影響を与えていることが分かっている。例えば、幼児期・児童期の段階から、子どもが努力している過程を認め、すぐに大人が答えを言うのではなく、なぜそのようになるのかを考えさせることが重要である。

※3 幼児期に「物事をあきらめずに挑戦する」といった『がんばる力』が高い子どもほど、小学校低学年（１～３年）で「大人に言われなくても自分から進んで勉強する」などの学習態度や『がんばる力』も引き続き高い傾向にある。

出典：ベネッセ教育総合研究所 「幼児期から小学４年生の家庭教育調査・縦断調査」同一の子どもについて、
７年間（３歳～小学４年生）の変化をとらえる追跡調査結果・第５弾 平成３１年２月

(3) 地域において

学校において、地域人材（すみだＳＳＴ、ゲストティーチャー等）及び地域施設の活用等、地域との連携を図る。

地域の人材や施設等を活用し、教育活動を充実させる

知識・技能

思考・判断・表現等

学びに向かう力

教育委員会は、学校に対して、地域人材や教員を目指す学生等で構成される「すみだスクールサポートティーチャー（すみだＳＳＴ）」を派遣し、授業中や放課後学習の補助を行う。このような放課後の補充的な学習サポートが、家庭の社会経済的背景による影響を縮小して学力向上につながっている^{※4}ことが、先行研究から分かっている。

また、ゲストティーチャーの招へいや学校支援ネットワークを活用した体験学習等を効果的・効率的に実施し、学習指導の更なる充実を図る。

※4 「家庭の社会経済的背景による影響を縮小する学校の取組」に、「放課後を利用した補充的な学習サポート」が挙げられている。

「学力が高い傾向がみられる子どもの保護者の行動や考え方」に、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子どもたちの教育に関わってくれる人が多い」が挙げられている。

出典：国立大学法人お茶の水女子大学 文部科学省委託研究「平成２５年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」 平成２６年３月

3 目標

前計画と同様に、「短期目標」と「長期目標」を設定する。

(1) 長期目標

前計画における長期目標を、本計画でも引き継ぐ。

長期目標１：「墨田区学習状況調査」の意識調査における「目標に向けていつもコツコツ学習している児童・生徒数」の割合を、次のとおり増加させる。

学年	平成31年度	令和7年度目標
小学6年生	66.7%	70%
中学3年生	56.0%	60%

長期目標２：「墨田区学習状況調査」における「D・E層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

学年	教科	平成31年度	令和7年度目標
小学6年生	国語	29.3%	25%
	社会	31.5%	30%
	算数	32.7%	25%
	理科	35.5%	30%
中学3年生	国語	32.2%	25%
	社会	48.4%	35%
	数学	38.9%	30%
	理科	49.1%	35%
	英語	36.7%	30%

(2) 短期目標

「墨田区学力向上新3か年計画（第2次）」における基本方針では、児童・生徒の学力向上のために、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「自ら進んで学びに向かう力を養うこと」の実現を目指している。これらの実現状況をみるために、令和4年度までに達成を目指す短期目標を、次のとおり設定する。

短期目標1：「墨田区学習状況調査」における「D・E層（学力低位層）の児童・生徒」の割合を、次のとおり減少させる。

○ 平成31年度

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
中3	32.2%	48.4%	38.9%	49.1%	36.7%
中2	29.1%	39.5%	43.5%	46.9%	37.9%
中1	27.7%	39.0%	35.2%	41.6%	—
小6	29.3%	31.5%	32.7%	35.5%	—
小5	24.0%	31.5%	31.0%	33.2%	—
小4	27.0%	30.2%	23.9%	29.6%	—
小3	20.3%	—	20.1%	—	—
小2	20.9%	—	17.0%	—	—



○ 令和4年度目標

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
中3	30%※	45%※	35%※	45%※	35%※
中2	25%※	35%	35%※	40%※	35%※
中1	25%	35%※	35%※	40%※	—
小6	25%	30%	30%※	35%※	—
小5	20%	30%※	30%※	30%※	—
小4	20%	25%※	20%	25%※	—
小3	20%	—	20%	—	—
小2	15%※	—	15%※	—	—

※は、前計画において短期目標を達成することができなかった学年・教科であり、これらは前計画の値を引き継ぐ。

それ以外の学年・教科は短期目標を達成したため、より高い目標値を設定する。

学力低位層であるD・E層の割合は減少傾向にあるものの、前計画の短期目標を達成することができなかった学年・教科があったことから、本計画においても、D・E層の割合の減少に関する目標を設定する。

短期目標 2 : 「全国学力・学習状況調査」における全ての教科の平均正答率を、全国（公立）の平均正答率以上とする（小 6 ・ 中 3 ）。

○ 区平均正答率を全国平均正答率と比較したときの値

・ 小学校第 6 学年

教科		平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
※１ 国語	国語Ａ	－１.５ポイント	＋２.２ポイント	＋５ポイント
	国語Ｂ	－１.７ポイント		
※１ 算数	算数Ａ	－１.６ポイント	＋２.２ポイント	
	算数Ｂ	－１.９ポイント		
理科※２		(平成２７年度) －１.８ポイント	(平成３０年度) ＋０.２ポイント	(令和３年度目標) ＋２ポイント

・ 中学校第 3 学年

教科		平成28年度	平成31年度	令和4年度目標
※1 国語	国語A	－0.2ポイント	－1.2ポイント	0ポイント
	国語B	＋1.6ポイント		
※1 数学	数学A	－1.2ポイント	－1.2ポイント	
	数学B	－1.0ポイント		
理科※2		(平成27年度) －2.4ポイント	(平成30年度) －2.6ポイント	(令和3年度目標) 0ポイント
英語※3			＋1.0ポイント	＋3ポイント

※ 1 国語及び算数・数学は、平成 30 年度までは A 問題（主として「知識」に関する問題） B 問題（主として「活用」に関する問題）が出題されており、平成 31 年度からは、A 問題と B 問題をまとめ、知識と活用を一体的に問う問題となった。

※ 2 理科は、平成 24 年度から実施されており、3 年に 1 回程度実施する予定である。

※ 3 英語は、平成 31 年度から実施されており、3 年に 1 回程度実施する予定である。

知識と活用を一定的に問う「全国学力・学習状況調査」では、全ての小問が「活用に関する問題」となっていることから、「思考力・判断力・表現力等を育む」ことに関する達成状況を、「全国学力・学習状況調査」を軸として目標として設定する。

短期目標３：「墨田区学習状況調査」の意識調査において、「家で、『ほぼ毎日』又は『週に４～５日くらい』勉強する」と回答する児童・生徒の割合を増加させ、「家で、ほとんど勉強しない」と回答する児童・生徒の割合を減少させる。

・「家で、『ほぼ毎日』又は『週に４～５日くらい』勉強する」と回答する児童・生徒の割合

学年	平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
小６	６６.８％	７２.４％	８０％
中３	４７.４％	５９.１％	６５％

・「家で、ほとんど勉強しない」と回答する児童・生徒の割合

学年	平成２８年度	平成３１年度	令和４年度目標
小６	１５.２％	１１.５％	８％
中３	１９.４％	１５.０％	１０％

(参考) 平成３１年度「墨田区学習状況調査」の意識調査(i-check)における「勉強する機会(家で週にどのくらいの日数勉強するか)」と「平均正答率」の相関

平均正答率	ほぼ毎日 勉強する	週４～５日 勉強する	週２～３日 勉強する	ほとんど 勉強しない
墨田区立 小学校６年生	７１.１％	６４.７％	５８.９％	５１.６％
墨田区立 中学校３年生	６２.２％	５９.６％	５６.８％	５０.８％

自ら進んで学びに向かう力を養うために、意識調査(i-check)にある家庭での学習習慣の確立に関する調査項目を、目標として設定する。

4 基本方針に沿った主な事業

(1) 事業体系図

事業名	ページ
ア 全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。	
①墨田区学習状況調査	28
②墨田区学習状況調査結果を活用したPDCAサイクルの確立【充実】	29
③全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査	30
④墨田区教育研究奨励事業	30
⑤学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】	31
イ 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。	
①学校ICT化の推進【充実】	31
②教育指導向上研修	32
③経験年数や教育課題に対応した研修	32
④習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施	33
⑤学力向上プランの作成・実施	33
⑥授業スタイルの確立・実施【新規】	34
⑦学習内容を定着させるための教材の活用【新規】	34
⑧自分の考えを記述する教材の活用【新規】	35
⑨指導のポイントの作成・活用【新規】	36
⑩教育研究所ニュースの発行・活用	36
⑪各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】	36
⑫学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】	37
⑬幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組の推進【充実】	37
⑭学校支援ネットワーク事業	38
ウ 学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。	
①放課後や長期休業中の補習の充実	38
②放課後子ども教室における学習活動への支援	38
③すみだチャレンジ教室の実施	39
④家庭学習の充実【新規】	39
⑤家庭と地域の教育力充実事業	40
⑥図書館を使った調べる学習コンクール	40
⑦小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布	41
⑧PTAとの連携【新規】	41

【新規】とは、新たに盛り込まれた事業（前計画の中途から先行的に実施している事業を含む。）である。【充実】とは、前計画において実施した事業のうち、内容を充実させた事業である。それ以外は、前計画からの継続事業である。

(2) 具体的な事業

ア 全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。

① 墨田区学習状況調査（すみだ教育研究所）

(ア) 墨田区学習状況調査の実施

児童・生徒に確かな学力を身に付けさせ、自ら学び、課題解決できる区民を育成することを目的とした学力向上施策推進のための基礎的データを得ることや、区立小・中学校が学力向上の計画を策定し、授業改善の取組を積極的に進めるために、自校の実態や児童・生徒一人ひとりの学習状況を把握することを目的に実施する。

児童・生徒に調査結果を返却する際には、各学校の学級担任等が、三者面談等の機会に、学習に関するアドバイスをを行う。

・教科に関する調査

国語、社会、算数・数学、理科、英語の定着度をみる調査

・意識調査(i-check)

児童・生徒の生活習慣や学習習慣等に関する考え方や態度を把握するための調査

(イ) すみだ学力向上推進会議の開催

学力向上に関わる方向性や教育施策を検討する。(年2回開催)

(ウ) 調査分析分科会

小・中学校の教育研究会から推薦された教員が、墨田区学習状況調査の調査結果を分析し、課題のある学習内容に関する指導のポイントを作成し、教員が活用する。

(エ) 教育委員会からのメッセージ

全ての小・中学校の教員に対して、「各学校及び個々の教員の学力向上の取組が進んでいること」及び「児童・生徒の学力が向上していること」を評価したメッセージを送付し、教員の学力向上へのモチベーションが高まるようにする。

また、児童・生徒に対して、夢や希望を持って学習に取り組む続けることの大切さに関するメッセージを各教室に掲示し、学習へのモチベーションが高まるようにする。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(ア)原則小学2年生から中学3年生の全児童・生徒に実施	(イ) (ウ) ◎実施	(ア) 小学校及び中学校第1学年は、新学習指導要領に対応した調査を実施	(ア) 中学校第2・3学年は、新学習指導要領に対応した調査を実施
(イ) 年2回開催			
(ウ) 校種・教科別にプレゼンテーションソフトを用いて指導のポイントを作成			
(エ) 教員及び児童・生徒へのメッセージ			

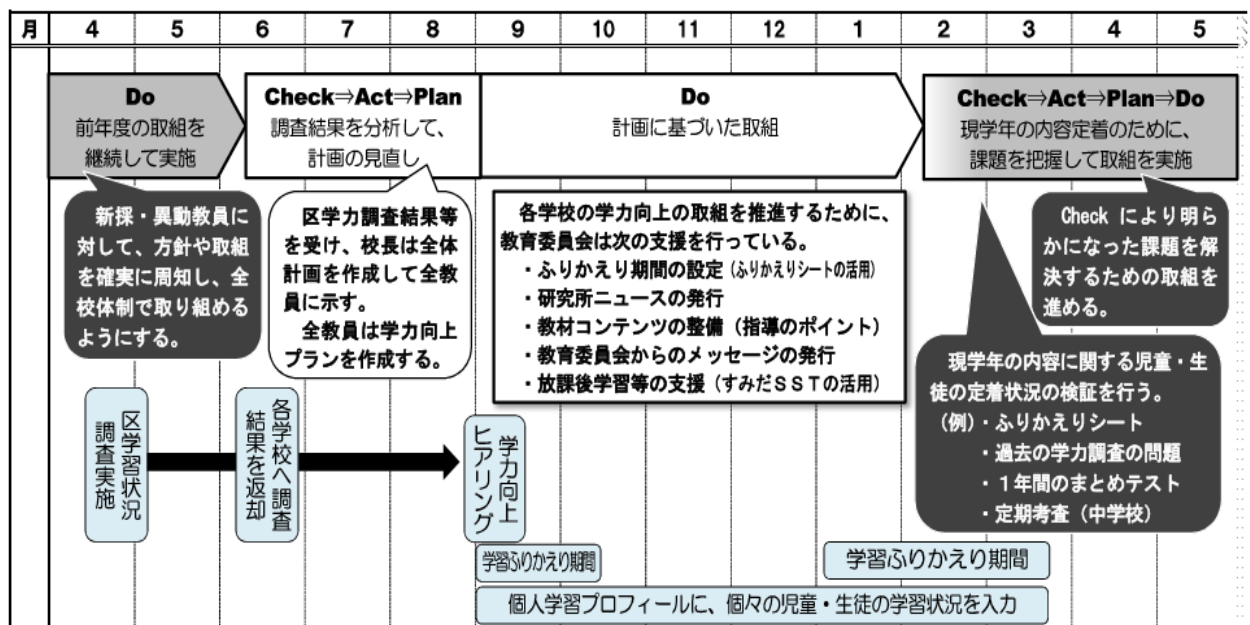
② 墨田区学習状況調査結果を活用したPDCAサイクルの確立【充実】(すみだ教育研究所)

本区では、毎年4月に墨田区学習状況調査を実施している。6月に明らかになる調査結果や自校の課題を踏まえて、校長が「学力向上を図るための全体計画」を作成する。それに基づいて、個々の教員は、担当する学級・教科に関する児童・生徒の学習状況を踏まえ、「学力向上プラン」を作成する。各計画は夏季休業中までに作成する。

各教員が「学力向上プラン」に基づいて取組を進め、単元末テストや学習ふりかえり期間等で内容の定着を確かめ、個々の児童・生徒の学習状況を「個人学習プロフィール」に記載する。次年度の担当教員は、「個人学習プロフィール」を参考にして、個に応じた指導に役立てる。そのために、これまでより詳細な学習状況を入力することができるよう、様式の改善を図る。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・校長は、「学力向上を図るための全体計画」を作成 ・全教員は、「学力向上プラン」を作成 ・計画に基づいた実施及び進行管理 ・区学力調査で明らかになった個々の児童・生徒の学習状況を記載	◎実施	◎実施	◎実施
夏季休業中までに各計画を作成し、9月以降は計画に基づいた取組を実施する。取組が確実に行われるよう、組織的に進捗管理を行う。			
	・当該学年の内容の定着状況を確認、明らかになった個々の児童・生徒の学習状況をより詳しく記載		

(参考) 学力向上に関わるPDCAサイクル(1年間の流れ)



③ 全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査

(すみだ教育研究所)

学校は、全国学力・学習状況調査や児童・生徒の学力向上を図るための調査を実施し、個々の児童・生徒の学習状況を把握し、今後の指導に役立てる。

学力調査の問題は、児童・生徒が身に付けるべき学力を具体化したものである。個々の教員が、国や都が発行する報告書や授業アイディア集を参考にし、調査問題を解くことで、調査問題の内容や趣旨を理解し、今後の指導に役立てる。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・全小・中学校において調査を実施	◎実施	◎実施	◎実施
	 国や都が作成する報告書や授業アイディア例を参考に、調査問題を解くことで、調査問題の内容や趣旨を理解し、今後の指導に役立てる。		

④ 墨田区教育研究奨励事業（指導室）

学力向上をはじめとする区の教育課題を踏まえて、校（園）内研修・研究の充実を図って学校の教育力を高める。

（ア）研究協力校（園）

教育委員会が示す「主要な教育課題」や今日的教育課題について特化した内容に関する研究実践を行い、その成果を公開発表する。（2年間）

（イ）特色ある学校づくり推進校（園）

学校（園）における特色ある教育活動を実践・研究し、その成果を公開発表する。

（ウ）個人・グループ奨励

教科等、その他の教育内容、教育方法等を研究する者に対し、研究奨励費を交付し、教員の自主的研究活動の奨励、助長を図る。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
（ア）研究協力校（園） 5校（園）（2年間）	◎実施	◎実施	◎実施
（イ）特色ある学校づくり推進校（園） 12校（園）	① 研究協力校（園） 5校（園）（2年間） ② 特色ある学校づくり推進校（園）		
（ウ）個人・グループ奨励 2名・1グループ	15校（園） ② 個人・グループ奨励 2名・1グループ		

(エ) 研究奨励及び特色ある学校づくり推進校実践発表会の開催	④ 研究奨励及び特色ある学校づくり推進校実践発表会の開催		
--------------------------------	------------------------------	--	--

⑤ 学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】(すみだ教育研究所)

全ての小・中学校に学力向上委員会等の組織を設置し、校長が委員長を指名する。

学力向上委員会は、「学校経営方針」や「学力向上を図るための全体計画」に基づき、学力向上に関する取組内容や取組方法を定め、個々の教員の役割を明確にする。

(学力向上に関する取組例)

- ・各種学力調査の運営
- ・学力調査結果分析の役割分担
- ・学力向上プラン作成に関するスケジュール管理
- ・学習ふりかえり期間の運営

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校によって学力向上に関する委員会を設置	◎実施	◎実施	◎実施
			
	学力向上委員会が、学校経営方針や学力向上を図るための全体計画に基づき、取組内容や取組方法を定め、個々の教員の役割を明確にする。		

イ 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。

① 学校ICT化の推進【充実】(庶務課・指導室・すみだ教育研究所)

各教室に大型提示装置や教員用タブレット端末等のICT機器を整備(更新)し、ICTを有効に活用できる環境を整えることによって、各学校がICTを活用してよりよい授業が行われるような環境を整備し、特別支援教育を含め、学校全体でICTを活用し指導力向上に向けた研修を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・ICT機器を全小・中学校に整備 ・学習内容の定着を図るための教材(ふりかえりシート)をコンテンツに入れ、全校がコンテンツ内の教材を活用 ・研修会の実施 33回	◎全小・中学校への整備完了及び実施	◎実施	◎実施
			
	1 授業改善を図るための授業方法や授業等に役立つコンテンツの整備 2 機器操作マニュアル等の整備充実、ICT支援員によるサポート 3 クラウドサービスの積極的活用による教職員の負担軽減の推進 4 ICTの有効活用に関する事例の共有、研修会の実施		

② 教育指導向上研修（指導室）

3年間の「東京都若手教員育成研修」を終えた教員に対し、知識や経験に基づく実践力を高める本研修を位置付け、11年目教員対象の「中堅教諭資質向上研修」につなげる。

特に、学習指導力の向上に重点を置く。「ねらいに沿って授業を展開する力」、「児童・生徒の興味を引き出し、個に応じた指導をする力」、「主体的な学習を促すことができる力」、「学習状況を適切に評価し授業を進める力」、「授業を振り返り改善する力」などの能力向上を目指す。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
研修受講者 10名	◎実施	◎実施	◎実施
研修回数 11回			

③ 経験年数や教育課題に対応した研修（指導室）

教員の経験年数等に応じて、効果的に研修を行っていくことは重要である。

（ア）1年次（初任者・新規採用者）研修

初任者・新規採用者を対象に、教職員研修室等（校外）における研修、宿泊研修、課題別研修のほか、校内における研修を行う。

※ 教職員研修室等における研修（年間14回）、宿泊研修（8月、あわの自然学園）、課題別研修（半日を1単位として6単位）、校内における研修（授業に関する研修120時間、授業以外の研修60時間、計180時間）

（イ）2，3年次研修

教職員研修室等（校外）における研修や、校内における研修を行う。

※ 教職員研修室等における研修（2年次は年間3回、3年次は年間2回）、校内における研修（学習指導に関する研修15時間、その他の研修15時間、計30時間）

（ウ）中堅教諭等資質向上研修

教諭等としての在職期間が10年に達した教員（11年目教員）に対し、学習指導、生活指導・進路指導等に対する指導力の向上、教育公務員としての資質向上等のための研修を実施する。

※ 教職員研修室等研修、学習指導（5単位分）、公務員としての資質向上（9単位分）、生活指導・進路指導（2単位分）、校内における研修、学習指導（8～20単位分）等

その他、各教科等の教育課題に対応した研修会を行う。受講した教員が各校で研修内容を還元し、各学校での教育活動の充実を図る。

- ・異なる学力層の子どもに対応した指導・支援に関する研修：多層指導モデルMIIM研修会
- ・各教科等の指導・支援に関する研修：外国語活動研修会、道徳教育推進教師連絡会、理科実技研修会、体力向上研修会等

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
研修受講者	◎実施	◎実施	◎実施
(ア) 51名			
(イ) 2年次 47名			
3年次 38名			
(ウ) 38名			

④ 習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施（指導室）

基礎・基本が定着している児童・生徒には、更に発展的な学習を展開し、学力上位層の割合を増やすことを目指す。

東京都の習熟度別指導ガイドライン（算数・数学、英語）に基づき、既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な指導」だけでなく、発展的な内容の学習や課題学習などによる「発展的な指導」を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・全小学校において、算数の習熟度別指導を実施	◎実施	◎実施	◎実施
・全中学校において、数学の習熟度別指導及び英語の少人数・習熟度別指導を実施			

⑤ 学力向上プランの作成・実施（すみだ教育研究所）

教員は、担当する学級や教科の学習状況を常に把握し、課題解決のために指導方法や学力向上の取組を工夫することが大切である。

本区では、全ての教員が、夏季休業中に、墨田区学習状況調査結果や通常の授業の様子等から課題を明らかにし、校長が作成する「学力向上を図るための全体計画」を踏まえた具体的な課題解決の方法を「学力向上プラン」に定める。

全ての教員は、9月以降、プランに定めた取組を確実に実行する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・教育委員会が「学力向上を図るための全体計画」及び「学力向上プラン」の様式を規定	◎実施	◎実施	◎実施
	夏季休業中までに各計画を作成し、9月以降は計画に基づいた取組を実施する。取組が確実に行われるよう、組織的に進捗管理を行う。		

⑥ 授業スタイルの確立・実施【新規】（指導室）

墨田区の全教員が授業で取り入れていく指導方法「墨田区教師の授業スタイル」を各学校へ提示する。授業のはじめに学習することを明確にすること、児童・生徒が考え、主体的に学び、対話する時間を確保し、授業の最後に学習したことを一人一人が振り返ることを明示し、授業改善、指導力の向上を図る。

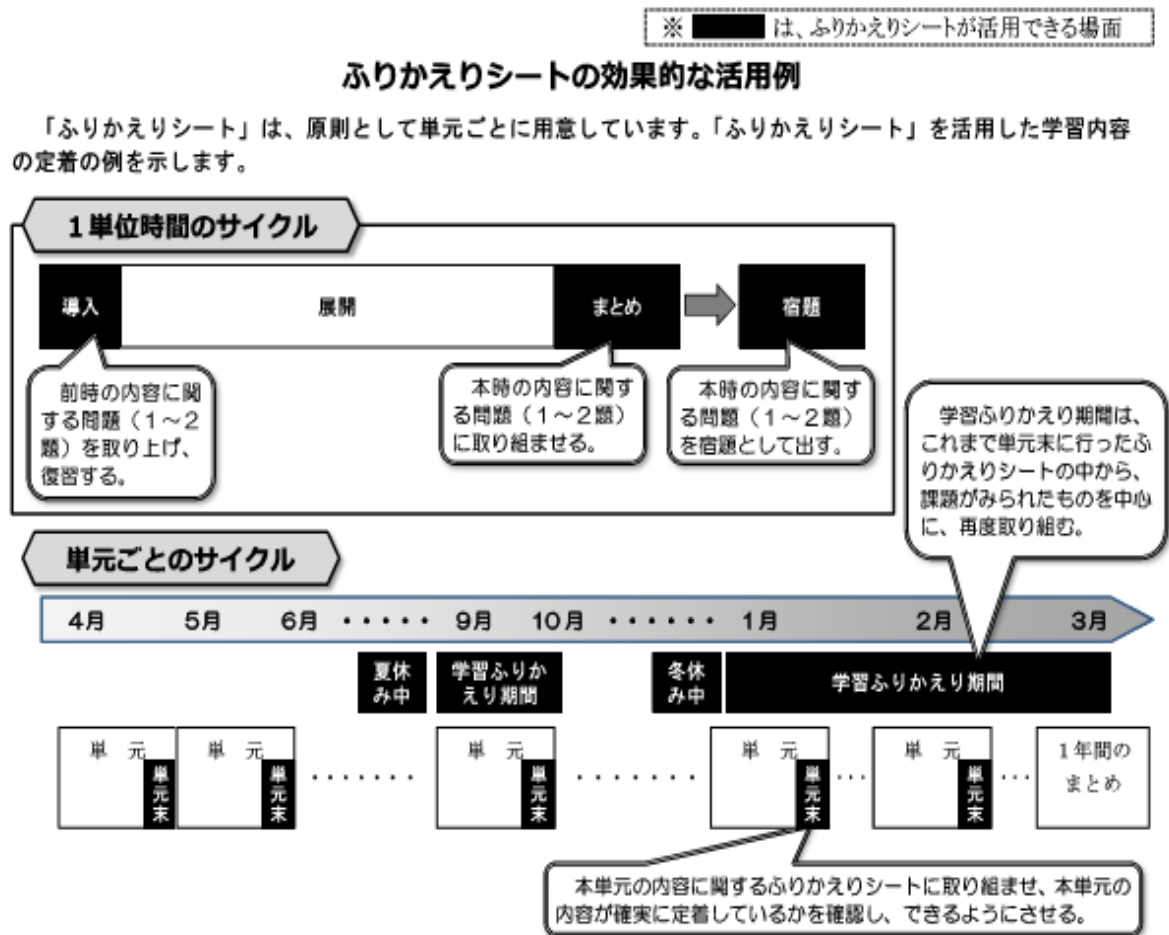
計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校サポート資料に掲載	◎実施	◎実施	◎実施
	リーフレットの配布		
	各学校でのOJTや校内研究授業の際に、「墨田区教師の授業スタイルチェックシート」を活用し、教員の授業力向上を図る。		

⑦ 学習内容を定着させるための教材の活用【新規】（すみだ教育研究所）

児童・生徒が、授業で学習した内容を理解しているかの確認のために、教育委員会はICTのコンテンツ集に学習内容を定着させるための教材（ふりかえりシート）を収納する。学校は、授業の終末・宿題・単元末、学期末の「学習ふりかえり期間」等に、ふりかえりシートを活用して、繰り返し復習を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	◎実施	◎実施	◎実施

(参考) ふりかえりシートの効果的な活用例



⑧ 自分の考えを記述する教材の活用【新規】（すみだ教育研究所）

全国学力・学習状況調査には、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立てて、実践し評価・改善する力に関する問題が出題されている。また、児童・生徒の学力向上を図るための調査には、「読み解く力」（文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、理由を理解・解釈・推論して解決する力）に関する問題が出題されている。

これらの「自分の考えを記述する問題」をICTのコンテンツ集に収納（大問ごとに分割）し、学校が、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に関する取組の支援を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
過去の国・都の調査問題を大問ごとに切り分けて、学校へ提供	◎実施	◎実施	◎実施
	各年度に実施した学力調査問題についても、大問ごとに切り分けて、学校へ提供する。		

⑨ 指導のポイントの作成・活用【新規】（すみだ教育研究所）

学力調査により、区全体で課題がみられた学習内容について指導のポイントを作成し、小・中学校へ提供する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・教育指導員の配置（社会、算数・数学、理科） 計3名	◎実施	◎実施	◎実施
・墨田区学習状況調査結果により、区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントを作成	 墨田区学習状況調査だけでなく、国や都の学力調査についても、区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントの充実を図る。		

⑩ 教育研究所ニュースの発行・活用（すみだ教育研究所）

新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的な指導方法、学力調査問題の意図、児童・生徒が間違いやすい学習内容など、教員が教材研究を行う際の支援になるよう、学習に関わる様々な情報をまとめ、小・中学校へ提供する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・社会、算数・数学、理科に関する教育研究所ニュースを、月1回発行	◎実施	◎実施	◎実施
			

⑪ 各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】（指導室）

図書館資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習等を通じて、児童・生徒が主体的に考え、判断し、表現する力を育む。

学校図書館の全体計画及び年間指導計画を作成し、授業において学校図書館を活用した調べ学習を行う。その際、授業やレファレンス等への支援を学校図書館司書に協力を要請する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
・学校図書館の全体計画及び年間指導計画の作成及び計画の実施	◎実施	◎実施	◎実施
・授業における学校図書館の活用			

⑫ 学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】（すみだ教育研究所）

東京未来大学との学習意欲に関する共同研究の成果（学習行動に表れるまでの心理的要素の過程、学習意欲測定尺度）について、教員対象の説明会を実施する。説明会の内容は授業等で活用することができるよう、より具体的・実践的なものとする。学校は、共同研究の成果を活用して、児童・生徒の学習意欲の向上につなげる。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
東京未来大学との共同研究の成果をについて、教員対象の説明会を行った。	◎実施	◎実施	◎実施
	 説明会の内容をより具体的・実践的なものになるよう工夫していく。		

⑬ 幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組【充実】（すみだ教育研究所）

「墨田区幼保小中一貫教育推進計画」（平成30年度～令和4年度）に基づき、中学校区を単位とした全10ブロックが、中学校卒業までを見通した学習指導を推進する。

中学校卒業までを見通した学習指導としては、「教科における連携」「出前授業、異校種間保育・授業参観、協働授業等の実施」「学習に関するブロック内共通の取組」「学習意欲向上の取組」などを、中学校区ブロック内の園・学校同士が実施する。

また、園児が英語に触れ・慣れる機会として、全てのブロックにおいて英語活動体験を実施する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
- 一貫教育巡回指導員の配置 1名 - 墨田区幼保小中一貫教育推進計画に基づき、中学校卒業までを見通した学習指導を、全てのブロックで実施 - 園児が英語に触れ・慣れる機会として、英語活動体験を、全てのブロックで実施	◎実施	◎実施	◎実施
	 展開方法や実施規模、実施主体などを見直ししながら、より効果的な取組となるよう検討する。		
	墨田区幼保小中一貫教育推進計画の効果検証を行い、計画の改定作業を行う。		

⑭ 学校支援ネットワーク事業（地域教育支援課）

地域企業・団体等が、各学校で出前授業を実施し、児童・生徒に対して、単元等の学習内容に関係した専門的知識・技術等を伝達する。このことにより、児童・生徒は、学習した内容の理解が更に深まり、学習した内容が日常生活・社会においてどのように関わっているかを学ぶことができる。

学校が期待する出前授業を実施することができるよう、協力団体等の新規開拓や、地域人材の発掘や事業の啓発等を進める。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
協力団体	◎実施	◎実施	◎実施
325団体			
実施回数			
476回			

ウ 学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

① 放課後や長期休業中の補習の充実（すみだ教育研究所）

学校は、授業中に学習内容の理解・定着が不十分だった児童・生徒に対して、放課後学習等を実施し、学習内容を「分かる」「できる」ようにする。

教育委員会は、すみだスクールサポートティーチャー（すみだSST）の募集・登録を行い、支援人材を必要とする学校にすみだSSTを派遣し、授業中や放課後学習の補助を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
すみだSST登録者数	◎実施	◎実施	◎実施
215名			
学校へSSTを派遣している時間数(1校当たり)	すみだSSTを活用した放課後学習等の更なる充実を図る。		
小学校 508時間			
中学校 476時間			

② 放課後子ども教室における学習活動への支援（地域教育支援課）

学校主体で計画的に実施する「放課後学習」以外に地域が関わって学習する機会を設けることは、宿題をするほか学習時間を増やす面からも有効である。

保護者や地域住民の参画を得ながら放課後の児童の居場所を設ける「放課後子ども教室」の中で、学習活動を行う自主的な取組に対し、支援を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
20校で実施	◎実施	◎実施	◎実施
			

③ すみだチャレンジ教室の実施（すみだ教育研究所）

学力の定着に課題があり、補習を希望する児童・生徒を対象に、放課後や夏休み等に補習教室を開催し、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習意欲の喚起を図る。

放課後等の補習教室では、実施校を選定し、原則、週1回（1コースにつき計9回）に教室を開催する。学校と協力し、授業や放課後学習との連携を図る。

夏休みの補習教室では、全中学校から、参加を希望する中学生を募集し、区役所内の会議室にて5日間開催する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(ア) 6校で実施 1校当たり9回実施	◎実施	◎実施	◎実施
(イ) 区役所内の会議室で、 夏季休業中に5回実施 (その他) 土曜日の午後 2校で実施 1校当たり9回実施	展開方法や実施規模、実施主体などを見直しながら、学校と連携を図り、効果的な運営を図る。		

④ 家庭学習の充実【新規】（すみだ教育研究所）

児童・生徒の発達段階に応じて、ふりかえりシート等の教材を活用し、授業で学習した内容の定着（復習）だけでなく、次の授業の準備（予習）や自ら課題を見付けて行う学習（自習）に取り組ませ、家庭学習の充実を図る。また、児童・生徒に家庭学習の仕方を指導し、家庭学習習慣の確立を図る。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	◎実施	◎実施	◎実施
			

⑤ 家庭と地域の教育力充実事業（地域教育支援課）

保護者に対して、「家庭教育に関わる様々な情報」や「親同士の学びの場や仲間づくりの機会」を提供するなど、関係部署と連携した効果的な事業を展開する。

（ア）家庭教育支援講座

園や小学校のPTAと連携し、保護者や地域の一般区民を対象として、子どもの生活習慣の改善や家庭における学習習慣付けを目的とした講座を開催する。

（イ）家庭教育学級補助金交付事業

家庭における子どもの教育を支援するために、区立幼稚園保護者の会、小・中学校PTA等が実施主体となり、家庭教育に関するテーマで講座・講演会を開催するために要する経費の一部を補助する。

（ウ）子育て通信

「子育て支援コラム」等を掲載した内容の広報誌を発行する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(ア) 12回実施	◎実施	◎実施	◎実施
(イ) 13団体へ交付			
(ウ) 4回発行			
	展開方法や実施規模などを見直ししながら、継続的に実施する。		

⑥ 図書館を使った調べる学習コンクール（指導室・ひきふね図書館）

図書館資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒が主体的に考え、判断し、表現する力を育む。

（ア）授業における学校図書館の支援

学校図書館司書が学校図書館の全体計画及び年間指導計画に基づき、授業において学校図書館を活用した調べ学習を行う際の環境整備を行う。

（イ）図書館を使った調べる学習コンクールへの参加促進及び支援

児童・生徒自身が立てた問いについて、図書、インターネット、インタビュー等から得られた情報をまとめ、「図書館を使った調べる学習」の取組の過程の中で、児童・生徒には、「情報を活用する力」、「情報リテラシー」が育まれることが期待できる。本コンクールへの参加を各学校、保護者等に積極的に促すとともに、保護者向け説明会や応援講座、個別相談会の開催により参加者等への支援を行う。また、取組の過程で必要となる図書の選定（レファレンスサービス）等の支援も学校と区立図書館が連携して行う。

（ウ）団体貸出

児童・生徒が学習内容を理解する・深めることを支援するため、授業中又は授業後に活用することのできる参考図書のセット貸出を行う。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(ア)授業における学校 図書館の支援	◎実施	◎実施	◎実施
(イ)図書館を使った調 べる学習コンクー ルへの参加促進及 び支援			
(ウ)団体貸出			

⑦ 小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布（すみだ教育研究所）

(ア) 小学校すたーとブック

就学を控えた5歳児の保護者に対して、子どもが小学校へ入学するに当たって、どのような力を身に付けておけばよいか、そのために家庭では何をしたらよいかなどをまとめた冊子を作成・配布し、家庭の教育力向上を図る。

(イ) 中学校入学プレブック

小学6年生に対して、中学生としての学習に取り組む姿勢、中学校で学習する教科の概要、小学校の学習内容の定着を図るための問題などをまとめた冊子を作成・配布し、入学後、円滑に学習に取り組むことができるようにする。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(ア)5歳児の保護者を 対象に2500部 作成・配布	◎実施	◎実施	◎実施
(イ)小学6年生を対象 に2300部作 成・配布			

⑧ PTAとの連携【新規】（地域教育支援課・すみだ教育研究所）

教育委員会が小・中学校PTA会長会で、学力向上に関する情報の周知を行う。学校単位のPTAからの依頼により、学力向上に関する説明会の講師として訪問する。

計画前(令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学校のPTA研修 大会において、学習意欲 に関する研究を行って いる学識が講演を実施	◎実施	◎実施	◎実施

参考資料

墨田区学習状況調査における平均正答率の推移(平成28年度から平成31年度まで)

墨田区学力向上新3か年計画(平成28年度～平成30年度)

○ 小学校

平成31年度調査		3年間の取組の結果									
教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国
国語	国語への 関心・意欲・態度	68.1	70.9	70.6	74.9	62.5	65.9	64.4	70.0	66.3	71.4
			67.1		71.6		61.6		68.7		69.4
	話す・聞く能力	74.3	81.4	75.7	81.9	62.0	65.2	76.7	85.8	80.0	87.3
			79.0		77.9		62.0		83.8		86.6
	書く能力	61.4	61.6	67.8	70.4	59.5	61.2	57.7	61.9	57.7	63.3
社会	読む能力	69.3	72.5	60.6	68.9	67.9	71.6	68.4	73.8	63.1	66.4
			68.8		60.5		67.9		69.4		63.5
	言語についての 知識・理解・技能	90.0	94.7	77.7	83.4	69.8	74.0	72.6	79.7	71.0	74.5
			95.5		80.9		70.6		78.5		74.1
	社会的な 思考・判断・表現					61.6	66.1	55.6	57.8	63.1	65.6
算数	観察・資料活用 の技能					64.2	68.6	54.3	56.2	66.0	67.4
							64.9		53.3		66.6
	社会的な事象への 関心・意欲・態度					60.9	64.9	53.3	59.4	59.4	63.3
							62.1		58.5		62.7
	社会的な事象について の知識・理解					70.8	73.2	59.0	62.5	63.9	65.7
理科						71.8			60.0		63.9
	算数への 関心・意欲・態度	69.5	73.2	60.0	64.2	66.4	71.0	56.7	59.7	38.0	40.3
			70.7		59.1		67.4		56.0		35.4
	数学的な考え方	72.7	77.1	62.6	66.9	57.4	60.9	56.6	59.0	51.7	52.1
			74.8		62.4		58.6		56.7		50.3
算数	数量や図形に ついての技能	83.0	87.8	77.9	82.6	76.2	80.3	69.0	70.7	67.6	69.8
			87.2		80.2		78.4		69.9		68.4
	数量や図形について の知識・理解	84.3	87.9	70.5	76.7	73.4	79.2	66.1	68.8	65.0	67.5
			86.8		72.8		75.6		67.4		65.9
	自然現象への 関心・意欲・態度					62.1	64.8	63.3	63.6	61.3	61.3
理科							64.4		65.6		62.1
	科学的な 思考・表現					58.2	61.4	62.5	63.2	57.3	59.1
							59.4		63.9		57.4
	観察・実験の技能					66.3	66.7	75.0	75.5	43.5	35.0
							67.3		78.3		37.3
理科	自然現象について の知識・理解					63.5	65.2	68.1	69.1	63.0	62.8
							65.1		70.0		62.8

平成30年度調査		2年間の取組の結果									
教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国
国語	国語への 関心・意欲・態度	73.8	80.2	68.1	70.5	66.9	70.8	61.9	66.3	66.9	70.1
			77.0		68.6		66.8		62.3		69.5
	話す・聞く能力	68.0	74.8	77.1	82.4	67.0	71.4	60.0	63.5	64.4	65.7
			71.3		80.8		67.0		60.3		64.3
	書く能力	76.9	82.5	59.5	60.6	62.7	65.4	56.0	62.9	64.1	66.9
社会	読む能力	66.1	71.8	63.6	67.7	65.0	69.1	71.6	78.6	69.4	73.0
			69.0		63.8		64.5		74.9		74.0
	言語についての 知識・理解・技能	90.0	93.7	81.4	85.4	71.0	73.3	70.4	78.6	64.4	70.2
			94.6		84.3		73.8		76.4		69.0
	社会的な 思考・判断・表現					62.4	65.4	56.9	59.2	60.7	59.7
算数	観察・資料活用 の技能					68.9	71.3	60.5	61.3	64.5	61.1
							68.5		60.1		64.0
	社会的な事象への 関心・意欲・態度					58.9	62.8	60.6	64.3	59.0	58.6
							59.0		64.1		61.4
	社会的な事象について の知識・理解					68.8	69.8	63.2	64.5	63.6	59.9
理科							68.5		62.9		63.1
	算数への 関心・意欲・態度	71.1	74.8	61.0	66.2	72.5	74.6	57.5	55.6	40.0	33.1
			70.4		63.3		71.4		51.0		32.2
	数学的な考え方	68.4	72.3	67.2	68.7	64.4	69.1	61.1	61.0	56.8	52.8
			67.8		65.5		66.5		57.5		53.0
算数	数量や図形に ついての技能	81.0	87.3	79.3	82.2	77.6	80.9	68.6	67.8	68.2	67.4
			85.0		80.5		79.8		66.1		69.9
	数量や図形について の知識・理解	83.2	87.3	71.1	73.5	74.7	77.5	66.9	66.5	71.3	70.8
			84.7		70.8		74.7		64.4		72.7
	自然現象への 関心・意欲・態度					76.3	82.0	70.5	68.6	60.7	54.3
理科							81.0		72.7		62.0
	科学的な 思考・表現					61.3	67.3	63.6	63.6	64.0	61.0
							64.0		66.0		68.6
	観察・実験の技能					80.5	84.3	70.5	74.6	68.7	62.2
							85.9		75.5		72.5
理科	自然現象について の知識・理解					70.7	75.5	71.3	69.8	68.7	63.5
							73.4		73.9		70.9

	観点数
B(全国平均) ≤ A(区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	60/69
B-5(全国平均-5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	9/69
A(区平均) < B-5(全国平均-5) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%より低い。	0/69

	観点数
B(全国平均) ≤ A(区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	49/69
B-5(全国平均-5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	16/69
A(区平均) < B-5(全国平均-5) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%より低い。	4/69

- ※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点
- 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低いが、全国平均正答率の－５ポイント以上である観点
- 区平均正答率が、全国平均正答率の－５ポイント未満である観点
- ※ 目標値は、標準的な時間を掛けて学んだ場合、期待される正答率を示したもの（単位：％）

旧計画（平成２５年度～平成２７年度）

平成 2 9 年度調査										1 年間の取組の結果										平成 2 8 年度調査									
教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年							
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国			目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国						
国語	国語への 関心・意欲・態度	75.6	81.1 81.0	65.6	74.5 71.8	68.1	74.0 68.3	65.6	77.8 76.4	65.6	71.3 70.6	国語	国語への 関心・意欲・態度	73.8	77.8 79.8	61.9	61.2 60.5	69.4	73.3 74.6	63.8	66.4 66.6	67.5	70.4 73.9						
	話す・聞く能力	71.0	75.8 75.3	63.0	72.6 67.8	71.1	74.8 70.6	75.0	87.5 87.4	60.0	67.2 67.6		国語	話す・聞く能力	75.0	81.9 82.4	63.8	66.0 64.9	72.2	78.2 78.3	69.4	75.6 75.4	71.7	77.9 80.6					
	書く能力	78.1	84.6 84.8	65.6	75.7 74.3	61.4	69.7 62.3	58.5	72.1 70.2	67.3	70.7 70.0			国語	書く能力	70.0	72.1 75.0	59.4	57.2 56.3	62.7	64.1 66.7	55.5	55.2 56.1	64.6	65.1 69.3				
	読む能力	66.4	71.2 69.6	64.3	75.3 70.9	63.9	75.0 68.9	73.4	81.3 79.7	72.2	78.5 78.3				国語	読む能力	72.5	77.2 76.7	65.7	67.9 66.0	67.5	70.9 69.4	68.2	71.8 70.9	67.5	73.4 75.8			
	言語についての 知識・理解・技能	90.0	95.4 95.7	80.9	90.1 89.1	67.4	75.3 72.8	68.4	72.9 72.9	69.2	74.6 74.9			国語		言語についての 知識・理解・技能	88.9	93.4 94.4	83.2	86.4 85.8	72.2	73.4 73.9	69.6	73.9 75.1	67.2	68.9 71.2			
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度					64.5	69.0 62.9	66.0	70.5 68.5	64.2	66.3 68.5	社会	社会的事象への 関心・意欲・態度						44.3	38.6 44.9	51.3	54.2 55.3	59.2	61.1 63.9					
	社会的な 思考・判断・表現					63.7	69.7 65.5	65.2	66.9 68.4	65.0	66.7 67.7		社会	社会的な 思考・判断・表現					46.9	41.3 47.2	51.3	54.2 55.3	59.6	62.1 65.0					
	観察・資料活用 の技能					71.3	75.9 75.1	67.9	67.4 69.0	69.4	70.0 72.2			社会	観察・資料活用 の技能					59.0	54.2 59.5	54.8	54.0 53.1	61.3	66.9 69.8				
	社会的事象について の知識・理解					76.4	81.4 78.6	70.2	73.2 71.8	68.3	70.1 70.9		社会		社会的事象について の知識・理解					63.1	57.2 63.5	63.8	64.3 64.0	65.5	63.6 68.2				
算数	算数への 関心・意欲・態度	65.6	66.8 66.5	56.5	60.1 58.2	67.5	75.0 71.0	59.3	62.5 62.8	40.0	40.0 37.2	算数		算数への 関心・意欲・態度	71.1	74.7 74.9	59.0	57.4 56.4	67.5	68.5 67.6	60.8	60.3 59.2	55.0	47.3 51.9					
	数学的な考え方	70.7	72.1 72.5	63.9	71.4 68.6	60.6	69.3 66.1	60.2	62.5 63.8	56.1	54.7 56.1		算数	数学的な考え方	74.5	75.4 76.6	63.0	64.0 62.9	58.1	57.0 59.2	59.4	60.3 61.3	60.6	56.4 60.9					
	数量や図形に ついての技能	82.5	86.5 86.2	76.9	80.9 80.0	76.1	81.5 79.8	71.4	72.1 74.2	71.0	69.0 71.7			算数	数量や図形に ついての技能	85.4	87.9 88.7	78.1	79.1 79.2	75.6	76.4 78.0	71.3	69.1 71.8	72.7	68.0 73.1				
	数量や図形について の知識・理解	83.1	84.6 84.6	69.8	76.2 75.6	74.0	80.8 77.0	70.3	70.9 72.6	68.6	67.2 69.9		算数		数量や図形について の知識・理解	84.1	88.2 87.8	66.1	65.9 67.4	77.0	77.9 78.2	65.0	63.7 64.7	70.2	65.4 71.3				
理科	自然事象への 関心・意欲・態度					67.7	69.1 73.0	61.1	60.4 66.3	70.4	69.5 77.2	理科		自然事象への 関心・意欲・態度					65.0	63.3 62.9	64.4	63.4 66.1	64.2	60.8 65.5					
	科学的な 思考・表現					58.4	62.2 62.5	54.8	50.0 56.3	62.6	61.7 67.7		理科	科学的な 思考・表現					60.3	58.2 59.0	61.1	60.0 64.0	59.2	55.2 60.1					
	観察・実験の技能					64.4	64.7 66.5	71.3	75.8 79.3	60.0	56.5 64.4			理科	観察・実験の技能					60.4	59.3 59.9	65.0	66.8 69.7	63.1	58.8 63.6				
	自然事象について の知識・理解					67.2	69.7 71.5	66.3	64.9 70.7	68.2	66.5 73.1		理科		自然事象について の知識・理解					68.7	68.4 69.7	65.6	65.2 68.5	71.2	68.6 73.3				

	観点数		観点数
B (全国平均) ≤ A (区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	39/69	B (全国平均) ≤ A (区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	17/69
B－5(全国平均－5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	23/69	B－5(全国平均－5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	46/69
A (区平均) < B－5 (全国平均－5) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	7/69	A (区平均) < B－5 (全国平均－5) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。	6/69

墨田区学力向上新3か年計画（平成28年度～平成30年度）

○ 中学校

平成31年度調査		3年間の取組の結果					
教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年	
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国
国語	国語への 関心・意欲・態度	78.3	83.3 82.9	66.7	73.2 70.0	66.7	67.4 70.8
	話す・聞く能力	80.0	85.2 85.0	64.2	70.1 67.3	71.3	76.3 77.3
	書く能力	67.9	71.1 70.9	64.7	71.4 68.1	60.9	59.7 64.1
	読む能力	65.7	69.8 67.8	50.9	53.5 51.9	59.2	63.7 62.4
	言語についての 知識・理解・技能	62.6	64.6 65.5	70.2	74.4 74.1	67.8	71.0 70.6
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	61.9	62.6 63.8	59.1	60.6 61.3	55.0	52.8 56.1
	社会的な 思考・判断・表現	58.5	59.7 60.2	56.1	58.2 59.0	49.0	46.1 49.4
	資料活用の技能	62.0	61.8 63.1	62.9	62.9 64.5	56.7	53.2 57.3
	社会的事象についての 知識・理解	64.0	62.7 64.9	65.8	66.1 68.5	58.6	53.5 58.8
数学	数学への 関心・意欲・態度	65.4	66.4 67.9	38.0	32.6 33.5	45.5	44.4 42.4
	数学的な 見方や考え方	62.9	63.1 64.9	43.7	40.1 41.0	41.8	40.5 38.7
	数学的な技能	70.8	71.5 72.7	56.8	58.2 56.6	60.7	64.8 62.0
	数量や図形などに 関する知識・理解	73.8	72.9 75.3	53.2	52.3 54.0	55.2	57.4 55.3
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	52.8	45.2 51.3	60.3	59.5 62.4	55.3	51.4 55.9
	科学的な思考・表現	55.1	49.3 54.8	50.3	50.1 51.1	53.0	49.8 53.5
	観察・実験の技能	69.4	69.1 72.5	66.5	64.9 69.8	65.0	63.9 69.5
	自然事象についての 知識・理解	63.4	60.0 64.3	60.6	56.3 61.0	55.8	53.3 55.5
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			62.3	65.0 64.0	64.1	66.2 65.4
	外国語表現の能力			45.0	46.5 46.2	50.9	52.5 50.6
	外国語理解の能力			65.3	68.1 67.6	63.7	65.9 65.2
	言語や文化についての 知識・理解			59.6	57.6 59.0	56.3	59.9 58.4

平成30年度調査		2年間の取組の結果					
教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年	
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国
国語	国語への 関心・意欲・態度	59.4	60.2 57.3	60.6	62.7 59.6	72.2	73.7 74.2
	話す・聞く能力	60.4	61.7 60.6	77.5	83.4 81.1	79.0	81.6 83.2
	書く能力	55.0	56.0 51.7	50.6	50.2 47.2	62.5	63.9 64.0
	読む能力	56.3	57.7 56.7	52.6	54.8 52.9	52.1	50.0 51.0
	言語についての 知識・理解・技能	67.6	68.8 70.5	73.7	75.5 75.8	63.8	63.6 64.2
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	52.3	51.0 52.7	51.7	51.4 54.1	57.0	55.6 59.3
	社会的な 思考・判断・表現	58.5	61.6 61.0	45.8	45.4 47.8	50.6	48.7 53.3
	資料活用の技能	52.2	50.1 51.1	51.3	48.1 52.3	55.2	49.9 55.9
	社会的事象についての 知識・理解	58.7	56.5 58.7	54.0	47.7 54.3	57.6	52.5 58.1
数学	数学への 関心・意欲・態度	66.4	66.2 68.0	46.7	49.6 46.8	40.5	35.9 36.4
	数学的な 見方や考え方	65.8	66.1 67.0	48.1	49.9 48.0	43.9	41.1 40.4
	数学的な技能	76.7	76.3 76.7	60.8	65.8 61.2	60.5	62.2 59.8
	数量や図形などに 関する知識・理解	66.6	65.4 67.2	54.1	58.1 54.0	57.1	56.5 55.9
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	57.6	50.5 55.6	49.8	45.8 47.5	52.4	39.6 44.8
	科学的な思考・表現	58.9	52.4 57.3	50.1	46.5 49.0	53.1	40.7 46.1
	観察・実験の技能	60.6	51.4 59.5	58.6	55.2 55.2	53.1	37.4 44.0
	自然事象についての 知識・理解	61.9	52.6 59.4	57.5	53.7 56.6	57.4	47.9 53.4
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			58.0	60.1 55.2	63.0	63.5 61.2
	外国語表現の能力			48.4	48.8 43.7	48.4	45.9 43.7
	外国語理解の能力			61.1	63.9 59.4	63.3	65.1 63.1
	言語や文化についての 知識・理解			50.4	49.9 44.0	60.4	61.6 59.3

	観点数
B(全国平均) ≤ A(区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	23/59
B-5(全国平均-5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	32/59
A(区平均) < B-5(全国平均-5) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%より低い。	4/59

	観点数
B(全国平均) ≤ A(区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。	25/59
B-5(全国平均-5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。	24/59
A(区平均) < B-5(全国平均-5) 区平均正答率が、全国平均正答率の-5%より低い。	10/59

- ※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点
 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の－5ポイント以上である観点
 区平均正答率が、全国平均正答率の－5ポイント未満である観点
※ 目標値は、標準的な時間を掛けて学んだ場合、期待される正答率を示したもの（単位：％）

旧計画（平成25年度～平成27年度）

平成29年度調査							1年間の取組の結果							平成28年度調査						
教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年		教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年						
		目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国			目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国	目標値	墨田区 全国					
国語	国語への 関心・意欲・態度	66.7	73.4 71.5	65.6	67.6 64.1	67.2	68.1 70.6	国語	国語への 関心・意欲・態度	66.7	70.5 68.3	72.2	77.4 75.5	63.9	64.7 66.1					
	話す・聞く能力	67.7	73.4 71.9	61.1	61.3 61.2	72.5	66.3 70.5		話す・聞く能力	70.0	75.7 74.3	70.6	74.1 74.7	68.9	73.3 75.7					
	書く能力	60.4	67.4 65.7	66.3	72.1 65.7	61.8	69.4 70.2		書く能力	59.6	62.2 59.2	70.7	77.5 73.9	58.3	55.7 56.4					
	読む能力	65.3	71.6 70.0	59.0	65.6 64.6	62.4	70.3 70.6		読む能力	54.5	57.0 55.9	61.4	67.0 66.3	58.3	62.3 63.5					
	言語についての 知識・理解・技能	72.6	77.0 78.4	74.4	79.0 78.7	72.6	75.3 76.2		言語についての 知識・理解・技能	66.6	68.3 68.8	71.2	75.7 75.2	65.4	66.9 69.7					
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	55.7	52.5 57.8	52.3	48.1 51.3	51.3	49.9 52.5	社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	51.7	46.9 50.9	53.0	49.0 54.5	52.5	47.9 53.0					
	社会的な 思考・判断・表現	56.1	53.7 58.2	48.0	42.8 45.4	49.0	44.5 47.2		社会的な 思考・判断・表現	49.8	46.3 50.8	53.5	49.6 54.3	50.4	47.8 51.2					
	資料活用 の技能	62.0	58.8 62.8	55.7	51.8 54.9	57.1	52.3 55.9		資料活用 の技能	53.9	49.9 53.6	56.1	51.3 56.7	54.4	50.3 54.0					
	社会的事象に 関する知識・理解	60.0	52.7 57.9	56.4	49.5 54.4	59.4	55.1 59.4		社会的事象に 関する知識・理解	56.4	50.0 55.4	55.7	49.9 56.2	57.0	51.8 57.0					
数学	数学への 関心・意欲・態度	58.2	57.5 59.9	51.7	50.7 51.8	52.0	51.5 53.5	数学	数学への 関心・意欲・態度	67.1	67.1 68.9	58.1	58.0 59.1	46.7	43.5 46.2					
	数学的な 見方や考え方	59.2	57.5 59.6	49.2	48.1 49.4	54.5	53.2 55.4		数学的な 見方や考え方	65.7	66.2 67.4	55.5	55.0 56.2	49.3	46.5 49.2					
	数学的な 技能	71.5	73.5 73.8	62.1	62.1 61.7	62.2	62.8 63.0		数学的な 技能	74.5	73.1 75.0	61.3	61.8 61.5	60.5	60.8 61.2					
	数量や図形などに 関する知識・理解	58.2	56.8 59.6	53.1	51.7 53.7	59.3	59.2 60.0		数量や図形などに 関する知識・理解	65.4	63.2 65.4	57.3	56.4 58.1	58.2	59.4 59.3					
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	57.3	53.5 60.0	49.4	43.2 46.7	58.0	55.0 60.3	理科	自然事象への 関心・意欲・態度	64.7	63.3 68.9	55.3	42.9 49.1	52.8	45.5 50.6					
	科学的な 思考・表現	58.9	56.8 62.7	50.2	45.3 47.9	51.5	50.5 53.5		科学的な 思考・表現	64.9	61.7 68.1	55.0	46.5 51.3	52.2	43.4 49.3					
	観察・実験 の技能	74.2	74.6 78.4	61.4	58.0 60.5	64.4	54.0 61.5		観察・実験 の技能	67.9	65.7 71.5	48.9	29.4 38.9	50.0	36.7 46.6					
	自然事象に 関する知識・理解	57.0	47.6 56.6	59.1	53.2 58.0	60.3	57.0 62.8		自然事象に 関する知識・理解	59.4	53.2 59.0	57.9	47.5 54.0	58.6	51.8 58.0					
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			65.0	67.6 67.6	63.3	64.3 64.8	英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			62.0	61.5 63.0	62.7	62.1 64.0					
	外国語表現 の能力			53.8	53.1 54.4	49.1	47.5 47.9		外国語表現 の能力			48.8	44.7 49.6	47.8	42.8 45.5					
	外国語理解 の能力			61.4	61.2 61.0	68.3	72.3 72.8		外国語理解 の能力			65.8	67.8 68.1	65.0	66.0 67.5					
	言語や文化に 関する知識・理解			62.9	60.8 62.4	65.4	70.4 69.6		言語や文化に 関する知識・理解			66.7	62.3 66.8	60.4	60.5 60.5					

		観点数	
B (全国平均) ≤ A (区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。		13 / 59	
B－5(全国平均－5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。		38 / 59	
A (区平均) < B－5 (全国平均－5) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。		8 / 59	

		観点数	
B (全国平均) ≤ A (区平均) 全国平均正答率よりも、区平均正答率の方が高い(同じ場合を含む)。		11 / 59	
B－5(全国平均－5) ≤ A(区平均) < B(全国平均) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%以上だが、全国平均正答率よりは低い。		31 / 59	
A (区平均) < B－5 (全国平均－5) 区平均正答率が、全国平均正答率の－5%より低い。		17 / 59	

墨田区学力向上新3か年計画（第2次）改定のポイント

1 基本方針の改定

前計画	第2次計画
・学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 ・基礎・基本を中心とした知識の定着を図る。 ・教員の授業力向上に取り組む。 ・発展的学習の機会を提供する。	児童・生徒に、知識・技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養う。そのために、 ・学校は、組織的に学力向上に取り組む。 ・教員は、よりよい授業の実現を目指す。 ・学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。

2 短期目標（令和4年度まで）の改定

前計画	第2次計画
・D・E層の割合を減少させる。	・D・E層の割合を更に減少させる。 ※前計画で目標値を達成した学年・教科は、更に高い目標値を設定した。達成しなかった学年・教科は、引き続き同じ目標値を設定した。
・「読む能力」「書く能力」「言語について知識・理解・技能」を向上させる。	（・前計画でおおむね目標を達成したため、第2次計画の目標とはしない。）
・「思考力・判断力・表現力」を向上させる。	・前計画でおおむね目標を達成したが、更に高い目標として、全国学力・学習状況調査における目標値を設定した。
	・意識調査において、家庭学習習慣に関する目標値を新たに設定した。

3 新規事業・内容を充実させる事業

前計画	第2次計画
墨田区学習状況調査結果を活用したPDCAサイクルの確立（個人学習プロフィール）【充実】	
墨田区学習状況調査において明らかになった個々の児童・生徒の定着状況を記載し、次年度に引き継いだ。	学級担任・教科担当教員が、単元末テストや学習ふりかえり期間等で内容の定着状況を確認、明らかになった個々の児童・生徒の定着状況をより詳しく記載し、次年度に引き継ぐ。
学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置【新規】	
	校長が指名した委員長を中心として、「学校経営方針」や「学力向上を図るための全体計画」に基づき、学力向上の取組内容・方法を定める。
学校ICT化の推進【充実】	
各学校がICTを有効に活用できるようにするために、ICT機器を全校に整備した。	クラウドサービスの積極的活用による教職員の負担軽減を推進する。また、ICTの有効活用に関する事例の共有を行い、研修会を実施する。

前計画	第2次計画
授業スタイルの確立・実施【新規】	
	「最初に復習をし、主体的に学習に取り組み、最後に学習内容をふりかえる問題に取り組み、宿題で定着を図る」などの授業スタイルを確立する。
学習内容を定着させるための教材の活用【新規《平成29年度から先行実施》】	
	授業の終末・宿題・単元末、学期末の「学習ふりかえり期間」等に「ふりかえりシート」等にある問題を活用して、学習内容の定着を図る。
自分の考えを記述する教材の活用【新規《令和元年度から先行実施》】	
	「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」問題を大問ごとに切り分けて学校へ提供し、思考力・判断力・表現力等の育成に関する取組の支援を行う。
指導のポイントの作成・活用【新規《平成30年度から先行実施》】	
	区全体で課題がみられた学習内容について、指導のポイントを作成し、各学校へ提供する。
各教科等の学習における図書館利用の推進【新規】	
	授業やレファレンス等への支援を学校図書館司書に協力を要請し、更なる活用を図る。
学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組【充実】	
東京未来大学と学習意欲に関する共同研究を行った。	共同研究の成果について、教員を対象とした説明会を開催する。各学校は、説明会の内容等をもとに、児童・生徒の学習意欲の向上の取組を進める。
幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組の推進【充実《平成30年度から先行実施》】	
中学校区ブロックの実情に応じて、学習指導に関する連携・交流等を行った。	墨田区幼保小中一貫教育推進計画に基づき、中学校卒業までを見通した学習指導を、全ての中学校区ブロックで実施する（計画の検証を令和4年度に行う）。
家庭学習の充実【新規】	
	授業で学習した内容の定着（復習）だけでなく、次の授業の準備（予習）や自ら課題を見つけて行う学習（自習）に取り組ませ、家庭学習の充実を図る。また、家庭学習の仕方を指導し、家庭学習習慣の確立を図る。
P T Aとの連携【新規《平成30年度から先行実施》】	
	小・中学校P T A会長会へ訪問し、学力向上に関する情報の周知を行う。学校単位のP T Aからの依頼により、学力向上の説明会の講師として訪問する。

墨田区学力向上新3か年計画 前計画と第2次計画の事業一覧

墨田区学力向上新3か年計画	
基本方針	1 児童・生徒の学習意欲を高め、自主的・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。 2 学習内容の定着に課題のある児童・生徒をフォローし、知識の定着を図る。 3 基礎・基本を中心にした確かな学力を身に付けるため、教員の授業力向上に取り組む。 4 発展的学習の機会を提供するための工夫に取り組む。
	学習意欲向上 「学習意欲の向上」に関する共同研究 家庭と地域の教育力充実事業 小学校就学前の家庭教育啓発資料の提供 中学校進学前の家庭教育啓発資料の提供
	知識の定着 学力向上支援事業の実施(すみだSSTの活用) すみだチャレンジ教室の実施 学生ボランティアの活用 放課後子ども教室における学習活動への支援 すみだスクールサポートティーチャーの登録・情報提供・育成
	教員の授業力向上 学校ICT化の推進 墨田区教育研究奨励事業 教育指導向上研修 年次別の教員研修 理科教育の充実(教育指導員の配置、ニュースの発行) 理科教育等設備整備費 墨田区学習状況調査・分析 授業改善プランに基づく授業改善サイクルの確立
	発展的学習 習熟度別指導の実施 図書館を使った調べる学習コンクール 学校支援ネットワーク事業 先進的な取組の調査・周知等 幼保小中連携の推進(英語教育など)
各計画における事業	



墨田区学力向上新3か年計画（第2次）	
児童・生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力等を育み、自ら進んで学びに向かう力を養うために ア 全ての小・中学校は、組織的に学力向上に取り組む。 イ 全ての教員は、よりよい授業の実現を目指す。 ウ 学校や教育委員会は、家庭・地域と連携して、更なる学力向上を図る。	
組織的な取組	充実 墨田区学習状況調査 墨田区学習状況調査結果を活用したPDCAサイクルの確立 全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査の実施 墨田区教育研究奨励事業 新規 学力向上委員長の指名及び学力向上委員会の設置
	充実 学校ICT化の推進 教育指導向上研修 経験年数や教育課題に対応した研修 習熟度別指導・少人数習熟度別指導の実施 学力向上プランの作成・実施 新規 授業スタイルの確立・実施 新規 学習内容を定着させるための教材の活用 新規 自分の考えを記述する教材の活用 新規 指導のポイントの作成・活用 教育研究所ニュースの発行・活用 新規 各教科等の学習における図書館利用の推進 充実 学習意欲に関する共同研究の成果に基づいた取組 充実 幼保小中一貫教育に関する学習指導の取組の推進 学校支援ネットワーク事業
	よりよい授業の実現
	家庭・地域との連携 放課後や長期休業中の補習の充実 放課後子ども教室における学習活動への支援 すみだチャレンジ教室の実施 新規 家庭学習の充実 家庭と地域の教育力充実事業 図書館を使った調べる学習コンクール 小学校すたーとブック・中学校入学プレブックの配布 新規 PTAとの連携事業

墨田区子ども読書活動推進計画（第4次）（案）概要

現計画（第3次）【平成27年度～31年度】

【計画の方針】	成果と課題
自主的・習慣的に読書に親しむ機会と環境を整備・充実する取組を行う。	第1 家庭・地域等 （成果） ・子供と一緒に読書に親しむ保護者が増加 ・お話会などの読書のきっかけづくりの取組の増加 ・施設の読書環境の整備が進捗 ・図書館での啓発、ボランティア育成、ボランティアによる企画事業が進捗 ・学校司書派遣等により学校との連携が進捗 （課題） ・読書習慣の形成のためには、読み聞かせなど読書のきっかけづくりだけでなく、保護者への啓発と取組への支援が必要 ・施設やボランティアと連携・協力し、発達段階に応じた読書活動の取組への支援が必要 第2 学校 （成果） ・学校図書館年間指導計画による計画的な図書館活用 ・不読率の改善 ・学校図書館の蔵書の充実 ・学校司書の配置（週2日、一部週3日） （課題） ・不読率の改善と読書の質の向上が必要 ・学校図書館の整備の推進が必要 第3 資料の充実 （成果） ・図書館資料の充実と職員の能力向上 ・障害のある子どもの読書環境整備 ・地域資料の整備 （課題） ・児童図書 of 充実とレファレンス能力の向上が必要 ・障害児向け資料の充実とボランティアとの連携が必要 第4 広報・啓発 （成果） ・読書に関する行事の実施による利用の促進 （課題） ・図書館の魅力を高める取組が必要
【計画の目標】	
(1)子どもの読書環境の充実 (2)地域社会における読書活動推進体制の充実 (3)子どもの読書活動を推進するための人材育成と協治（ガバナンス） (4)子どもの読書活動に関する理解の促進	
【子どもの読書活動推進のための方策】	
(1)家庭・地域等における子どもの読書活動の推進 (2)学校における子どもの読書活動の推進 (3)資料等の充実による子どもの読書活動の推進 (4)広報・啓発等による子どもの読書活動の推進	

次期計画（第4次）【令和2年度～6年度】

【基本方針】	【取組の方向性】
読書を通じて、子どもが生きる力を育み、健やかに成長し、豊かな人生を送ることができるように、家庭、地域、学校、図書館等が連携して読書習慣を形成を図るとともに、読書環境の整備に取り組む。	A 乳幼児期の読書活動の推進 家庭や地域での読み聞かせ等を通じて、子どもが図書の豊かな言葉や世界と出会えるように読書活動の取組を進める。 B 小学生期の読書活動の推進 自ら図書を選ぶ楽しさ、読書を通じた活動の面白さを体験するために、学校図書館を通じて、授業や調べ学習を中心とした読書活動の取組を進める。 C 中学生・高校生期の読書活動の推進 他者とのやり取りを通じて、論理的な思考を養い、自らの考えを深める活動を支援する取組を進める。 D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進 特別な支援を要する子どもに十分に配慮するとともに、障壁のない読書サービスを提供する取組を進める。
【基本目標】	【取組の方向性ごとの達成目標】
(1)読書活動の機会の充実と啓発 発達段階に応じた読書習慣の形成を図るために、家庭、地域、学校、図書館等の連携・協力により、読書活動の機会の充実と啓発を行います。	A 乳幼児期の読書活動の推進 ・乳幼児の貸出者数を1.5倍にする。 ・乳幼児の貸出冊数を1.5倍にする。 B 小学生期の読書活動の推進 ・不読率を半減させる。（ただし、平成25年度比） C 中学生・高校生期の読書活動の推進 ・不読率を半減させる。（ただし、平成25年度比） D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進 ・18歳以下の障がいをもつ子どもを対象に、10年間で図書館サービスを普及する。 ・外国語絵本の蔵書数を1.5倍にする。
(2)読書環境の整備 家庭、地域、学校、図書館等の連携・協力により、子どもの読書環境を整備します。また、学校図書館の整備と活用を図ります。	
(3)読書活動を支える人材育成 図書と子どもをつなぐ人材を育成し、地域における読書活動の充実を図ります。	

墨田区子ども読書活動推進計画（第4次）施策体系(案)

	基本目標	条例の条項	取組の方向性							
			A 乳幼児の読書活動の推進 主な取組	B 小学生の読書活動の推進 主な取組	C 中学生・高校生期の読書活動の推進 主な取組	D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進 主な取組				
家庭	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	第6条（家庭での取組）	子どもの読書活動について理解すること		子どもに図書館を利用することを勧めること		子供と一緒に図書館を利用すること			
			保護者がわらべうたや絵本を読み聞かせをして、子どもが言葉や読書に興味をもつこと		子どもの好きな図書を繰り返し読み聞かせすること	子供と一緒に読書をする機会をもつこと	子どもと同じ図書を読んで、子どもと読書を楽しむこと			
			子どもと図書館に行き、一緒に図書を選ぶこと		子どもに家族の愛読書や面白かった読書経験を伝えること					
			子どもの好きな図書を繰り返し読み聞かせをすること			子どもと同じ図書を読んで、子どもと感想を語り合うこと				
			おうちDeどくしょノートを活用して、家族と一緒に読書を楽しむこと			—				
			保護者同士の情報交換（良書の紹介、家庭での読書実践例など）							
		第12条（区立図書館の取組）	家庭での取組への支援	出席前育児教室での読書活動啓発		—	—	個々の子どもに応じた図書館ツアー		
				読書のすすめ講座		—	—	障害者図書に関する情報提供		
				絵本に関する情報提供		児童書に関する情報提供		青少年向け情報誌「10代の図書館」の配布		
				おうちDeどくしょノートの配布		—	—			
	(2) 読書環境の整備	第12条（区立図書館の取組）	ブックスタート事業の実施		図書館員体験		—			
			—		ブックリストを参考に子どもと一緒に選書する。		ブックリストを活用して選書のアドバイスをする。			
			図書を収納する箱や書櫃を用意するなど、子どもが手軽に手に取れるような環境づくりをする。							
			親子で読書することのPR活動					読書相談会		
			読書活動習慣化を図るための読書時間の確保のPR					—		
			—							
(3) 読書活動を支える人材育成	第6条（家庭での取組）	図書館でのお話し会や読み聞かせ講座等に参加し、子どもがどのような図書に興味をひかれるのかを知ること				青少年向け図書のブックリストを通じて、子どもがどのような図書に興味をひかれるのかを知ること	—			
		子どもの読書に関する講座				親子で読書のPR	図書の紹介講座			
	第12条（区立図書館の取組）	家庭での取組への支援	絵本に関する理解講座		子どもの読書に関する講座		読書時間の確保PR	読み聞かせスキルに関する読書講座		
			—		—		—	図書館員体験		
			定期的な読み聞かせ				児童館等で図書に触れ合う機会を増やす	個々の子どもに応じた読み聞かせ		
			保護者も参加する行事におけるブックトークの実施と、読書の重要性についての理解の促進		ブックトークやアニメーションの実施		—	—		
地域	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	第7条（地域での取組）	図書館見学を通じた図書に触れ合う機会の増加				—	—		
			—				—	—		
			出張読み聞かせ会の開催				出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ会の開催	
			—				—	—	障害者図書に関する情報提供	
			絵本のブックリストの配布				青少年図書のブックリストの配布		図書に関する情報提供	
			—				—	—		
		第12条（区立図書館の取組）	地域での取組への支援	出張読み聞かせ会の開催				出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ会の開催
				—				—	—	障害者図書に関する情報提供
				—				—	—	—
				出張読み聞かせ・ブックトークの開催				出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ・ブックトークの開催	出張読み聞かせ会の開催
	(2) 読書環境の整備	第7条（地域での取組）	貸出用読書コーナーの設置				貸出用読書コーナーの設置			
			団体貸出を利用した図書の充実				団体貸出による読書環境の充実支援			
			—				—			
			リサイクル図書の提供				—			
			第7条（地域での取組）	職員の読み聞かせ技術の向上				—		
				読み聞かせボランティアの活用		読み聞かせボランティアの活用		—		—
(3) 読書活動を支える人材育成	第12条（区立図書館の取組）	施設職員向け読み聞かせスキル向上のための講座				—				
		—		読み聞かせボランティアの育成講座		—		—		
		—		—		—		—		
		—		—		—		—		
学校	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	第8条（学校の取組）	読書指導				特別支援学級でのお話し会の実施			
			朝読書等の時間を活用した読書活動				—			
			多様な読書スタイルの啓発				—			
			授業における学校図書館の活用の促進				—			
			読書に関する啓発、イベントの実施				—			
			下級生や幼稚園及び保育園での読み聞かせ				—			
			委員会活動での図書の紹介				—			
			学校図書館での工作会やお楽しみ会等イベントの実施				—			
		第12条（区立図書館の取組）	学校での取組への支援	生徒による読書会の開催				—		
				読書マラソン				—		
				季節等に合わせたお勧め図書の展示				—		
				ブックトークやアニメーション等の実施				—		
				調べる学習コンクールの参加				—		
				出張読み聞かせ・ブックトークの開催				出張読み聞かせ会の開催		
	(2) 読書環境の整備	第8条（学校の取組）	調べ学習への支援				—			
			出張読み聞かせ・ブックトークの開催				—			
			調べ学習への支援				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
		第11条（学校図書館の整備）	—				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
			—				—			
第12条（区立図書館の取組）	学校での取組への支援	蔵書管理の適正化				—				
		選書及び除籍の管理				—				
		情報資源の整備				—				
		新聞の設置				—				
		学校司書の配置及び学校図書館運営支援				—				
		選書支援				—				
(3) 読書活動を支える人材育成	第8条（学校の取組）	団体貸出による読書環境の充実支援				—				
		授業参考図書の整備				—				
		読み聞かせボランティアの活用				障害児読書ボランティアの活用				
		学校読み聞かせボランティア養成講座				—				
	第12条（区立図書館の取組）	学校での取組への支援	学校図書館担当教諭研修会の協力				—			
			学校司書意見交換会の開催				—			
			—				—			
			調べる学習コンクールでの個別相談会や作品展示での協力				—			
			—				—			
			—				—			
図書館	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	第12条（区立図書館の取組）	児童書及び絵本の普及		青少年向け図書のレファレンス		障害に応じた図書のレファレンス及び情報提供			
			絵本にかかわるレファレンス		児童書に関する情報提供		青少年向け図書に関する情報提供		外国語図書に関するレファレンス及び情報提供	
			絵本に関する情報提供		【新規】パスファインダーの製作と配布				—	
			おはなし会、工作会等の開催				中学生、高校生の読書活動に関する情報発信		外国にルーツを持つ子どものための図書館ガイダンス	
			ブックスタート事業の実施		—		POPコンテスト（絵本以外）		—	
			—		—		【新規】POPコンテスト（絵本）		—	
			年齢に応じた図書の収集と提供		児童書の収集と提供		青少年向け図書コーナーの設置		図書館の利用環境の整備	
			—		—		—		図書の宅配サービス	
	(2) 読書環境の整備	第12条（区立図書館の取組）	【新規】本棚の作り方をPR		—		外国語の図書の充実			
			リサイクル図書の提供				—			
			【新規】絵本・子育て関連図書貸出セット		—		—			
			読み聞かせボランティア養成講座		—		中学生・高校生向け読書講座		施設職員向け読み聞かせ技術講座	
			ブックトーク、ストーリーテリング等の技法の研修		—		図書館を使った情報活用講座		障害者図書制作ボランティアの育成	
			絵本のレファレンス研修		児童書に関するレファレンス研修		—		図書館員向け外国語の図書に関するレファレンス研修	
			—		—		—		—	
			(3) 読書活動を支える人材育成	第12条（区立図書館の取組）	—		—		—	

墨田区子ども読書活動推進計画（第４次）
（案）

令和 年 月
墨田区教育委員会

はじめに

本区では、平成１７年に５か年の「墨田区子ども読書活動推進計画」を策定し、現在に至るまで２回の改定を重ね、子どもの読書環境の整備に取り組んでまいりました。さらに、平成３０年度の「墨田区子ども読書活動推進条例」の制定により、より一層、子どもの読書環境の整備を進めているところです。

「墨田区子ども読書活動推進計画（第４次）」の策定にあたっては、墨田区立図書館運営協議会委員の学識経験者、学校、ＰＴＡ、ボランティア、公募区民の皆様からご意見をいただきました。

この計画では、基本方針のもと、「読書活動の機会の充実と啓発」、「読書環境の整備」、「読書活動を支える人材育成」の３つの基本目標を達成するために、子どもの発達段階に応じた取組を進めることとします。

今後、墨田区としては、区民の皆様方の御理解と御協力のもと、学校や幼稚園、保育園、児童館などの地域での読書活動と合わせて、家庭での読書活動の支援にも取り組んでいきます。

墨田区教育委員会

目次

第1章 第4次計画策定にあたって	
第1 計画策定の趣旨	・・・ 1
第2 計画の位置づけ	・・・ 1
第3 計画の対象	・・・ 1
第4 計画の期間	・・・ 1
第5 計画の推進	
1 推進体制	・・・ 2
2 協力体制	・・・ 2
3 計画の検証	・・・ 2
第2章 これまでの取組・成果と課題	
第1 家庭・地域等における子どもの読書活動の推進	・・・ 3
第2 学校における子どもの読書活動の推進	・・・ 6
第3 資料等の充実による子どもの読書活動の推進	・・・ 8
第4 広報・啓発等による子どもの読書活動の推進	・・・ 9
第5 到達すべき数値目標、実績と課題	・・・ 10
第3章 第4次子ども読書活動推進計画	
第1 基本方針	・・・ 12
第2 基本目標	・・・ 13
第4章 子ども読書活動推進のための施策及び目標値	
第1 取組の方向性について	・・・ 14
第2 実施する施策	
□取組の方向性A 乳幼児期の読書活動の推進	・・・ 15
□取組の方向性B 小学生期の読書活動の推進	・・・ 18
□取組の方向性C 中学生・高校生期の読書活動の推進	・・・ 23
□取組の方向性D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進	・・・ 29
第5章 家庭、地域及び学校等で取組を支援するための施策	
第1 乳幼児期の読書活動への支援	・・・ 33
第2 小学生期の読書活動への支援	・・・ 34
第3 中学生・高校生期の読書活動への支援	・・・ 36
第4 特別な支援を必要とする子どもの読書活動への支援	・・・ 38

第1章 第4次計画策定にあたって

第1 計画策定の趣旨

本区においては、子ども読書活動を推進するために、平成17年3月に「墨田区子ども読書活動推進計画」(平成17年度～平成21年度の5か年計画)を策定し、平成22年3月には同計画(第2次)、平成27年3月には同計画(第3次)を改定し、本区が家庭、地域、学校や関係機関等と連携・協働しながら、子どもの読書が活発に行われるように、読書活動の推進に取り組んできました。

今年度をもって、同計画(第3次)の期間(平成27年度～平成31年度)が終了することから、このたび「墨田区子ども読書活動推進計画(第4次)」(以下「本計画」という。)を策定します。

また、平成30年墨田区議会第4回定例会において、「墨田区子ども読書活動推進条例」(以下「条例」という。)が制定されました。この条例は、基本理念のほか、家庭、地域、学校での取組、学校図書館の整備と区立図書館の取組を定めています。

本計画は、条例の規定に沿うとともに、先の第1次～第3次の計画における取組を受け継ぎ、子どもたちが自主的に読書活動ができる環境の整備・充実を進め、総合的・体系的に推進するための施策を示します。

第2 計画の位置づけ

本計画は、子ども読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号。以下「法」という。)第9条第2項及び条例第9条の規定に基づく計画であり、「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(平成30年4月、文部科学省)及び「第三次東京都子供読書活動推進計画」(平成27年2月、東京都教育委員会)を基本として、墨田区の現状を踏まえ、今後5年間にわたる読書活動の具体的な施策を明らかにするものです。

第3 計画の対象

おおむね18歳以下の子ども

第4 計画の期間

令和2年度から令和6年度までの5年間

第5 計画の推進

1 推進体制

本区は、墨田区図書館運営協議会（以下「運営協議会」という。）に対し、本計画に掲げる事業の進捗について報告するとともに運営協議会から意見を聞き、計画的、効果的かつ効率的に各取組を推進します。

2 協力体制

本計画の実施にあたり、家庭、地域は子どもの読書活動の推進に関わる方々との協働を進めるとともに、区は、区立図書館・図書室のほか、学校、子ども・子育て支援部、保健センター等の関係部署が各自の取組を積極的に進め、互いに連携し、計画の実現に取り組みます。

3 計画の検証

本区は、本計画の進捗状況及び効果を測るため、取組の方向性及び施策ごとの指標を設け、年度ごとに実績の把握・検証を行い、運営協議会から意見を聞きます。

進捗状況の評価としては、「目的達成」、「順調に推移」、「改善・努力が必要」、「達成の見込なし」の4段階とします。

なお、計画の実績及び検証の結果については、条例第10条第3項の規定に基づき公表します。

評価基準

- ・計画最終年度の目標値を達成していれば、「目的達成」
- ・各年度の目標値を達成していれば、「順調に推移」
- ・各年度の目標値を下回るが、計画策定時より向上または向上が見込まれる場合は、「改善・努力が必要」
- ・計画最終年度の目標達成が見込めない場合は、「達成見込なし」

（各年度の目標値は、計画初年度と計画最終年度の目標値の差を計画年度（5年間）で均等に割り、年度ごとに累計した値とします。）

第2章 これまでの取組・成果と課題

第1章第1に記載する同計画（第3次）では、「家庭・地域等」、「学校」、「資料等の充実」、「広報・啓発等」の4つの項目について次のように取組を行い、その結果、以下のような成果と課題がありました。

第1 家庭・地域等における子どもの読書活動の推進

主に乳幼児期から小学生期の子どもを対象として読書活動を推進しました。

1 家庭

（1）取組

ア 保護者への意識啓発

イ 読書のきっかけづくり事業の推進

（2）成果

ア 保護者への意識啓発については、家庭の読書に関する講演会の実施や読書の紹介冊子を配布することにより、図書館・図書室の乳幼児の貸出者数及び貸出冊数が増加しました。

乳幼児（0～6歳）	平成25年度	平成30年度	増減
貸出者数[人]	11,095	16,627	49.8%増
貸出冊数[冊]	53,136	67,129	26.3%増

イ 読書のきっかけづくりとして、おはなし会や読み聞かせを定期的実施することにより、参加者が増加しました。

乳幼児対象おはなし会	平成25年度	平成30年度	増減
参加者数[人]	5,141	6,440	25.3%増

2 施設（保育園、幼稚園、児童館、子育てひろば等）

（1）取組

ア 読み聞かせ、お話し会等の実施

イ 図書の充実

（2）成果

ア 施設でのお話し会の開催数が増加しました。

施設でのお話し会	平成25年度	平成30年度	増減
開催数[回]	42	77	83.3%増

イ 施設での図書の充実を図るため、団体貸出の貸出冊数が増加しました。

団体貸出	平成 25 年度	平成 30 年度	増減
貸出冊数[冊]	10,365	12,793	23.4%増

3 区立図書館・図書室

(1) 取組

- ア 事業の充実
- イ 地域人材の育成
- ウ 関係機関・地域等との連携・協力
- エ 学校図書館との連携・協力
- オ 児童図書等の再利用の促進

(2) 成果

ア 事業の充実については、お話し会や工作会等の行事、小学生の図書館見学、中学生・高校生の職場体験を実施するとともに、調べる学習コンクールへの協力を通じて、読書活動の啓発を行いました。

(平成 30 年度実績)

- ・お話し会(乳幼児向け 419 回、小学生向け 25 回)
- ・工作会(乳幼児向け 2 回、小学生向け 5 回)
- ・おたのしみ会(乳幼児向け 15 回、小学生向け 2 回)
- ・図書館見学(小学生 1,791 人)
- ・職場体験(中学生 130 人、高校生 11 人)

イ 地域人材の育成については、小学校読み聞かせボランティア講座、絵本の理解講座を実施し、読書を担う地域の人材育成に取り組みました。

(平成 30 年度実績)

- ・読み聞かせボランティア養成講座(8 回)
- ・絵本の理解講座(3 回)

ウ 関係機関・地域等との連携・協力については、国・都等の図書館との相互貸借による資料の充実や東京オリンピック・パラリンピックの啓発展示の共同実施を行いました。また、ひきふね図書館パートナーズ¹の企画による子ども向けのワークショップや中高生を対象とした「おもてなし課」

¹ 「ひきふね図書館パートナーズ」: 図書館に望ましい事業・サービスを利用者目線で考え、実現するための企画を提案し、図書館との協働で実施しているボランティア団体。

活動²、ボランティアの協力による読み聞かせを実施しました。

(平成30年度実績)

- ・子ども向けワークショップ(1回)
- ・「おもてなし課」の活動(月1回)

エ 学校図書館との連携・協力については、ひきふね図書館が小学校及び中学校の学校図書館に学校司書³を配置するとともに、学校図書館連携システム⁴の管理・運用を行いました。また、調べる学習コンクール相談会や図書館担当教諭研修会への協力、学校司書意見交換会を行い、学校図書館との連携・協力を進めました。

(平成30年度実績)

- ・学校図書館へ学校司書を配置(小・中学校 週2日)
- ・調べる学習コンクール相談会への協力(相談員の配置等)
- ・図書館担当教諭研修会(2回)
- ・学校司書意見交換会(1回)

オ 児童図書等の再利用の促進については、児童書のリサイクル図書の提供⁵を実施しました。

児童書のリサイクル 図書	平成25年度	平成30年度	増減
配布冊数[冊]	2,053	8,506	414%増

【課題】

・読み聞かせや工作会等の取組をきっかけとして、保護者に読書活動の重要性を理解してもらうとともに、家庭において読書活動に取り組めるように支援を行うことが必要です。なお、乳幼児期において保護者は子どもの読書活動について深く関わることから、保護者への啓発及び支援は、区立図書館・

² 「おもてなし課」：人が集まる楽しい図書館を目指した企画を考え活動する中学生及び高校生のボランティアグループ

³ 「学校司書」：図書管理、選書、除籍業務のほか、児童・生徒への図書館教育、授業協力などを行っている。

⁴ 「学校図書館連携システム」：学校図書館と区立図書館が連携し、貸出・返却・検索等の機能を持つシステム

⁵ 「リサイクル図書の提供」：図書館で除籍になった図書で、再利用が可能なものを無料で配布している。

図書室、学校、地域の施設やボランティアが連携・協力して進める必要があります。

第2 学校における子どもの読書活動の推進

小学校及び中学校の児童・生徒を対象に、読書活動を推進しました。

1 取組

- (1) 児童・生徒の読書習慣の確立、読書指導の充実
- (2) 家庭・地域との連携による読書活動の推進
- (3) 子どもの読書活動の推進のための学校図書館等の機能強化
- (4) 学校図書館の資料、施設・設備等の整備・充実
- (5) 学校図書の活用を推進していくための人的配置の推進

2 成果

- (1) 児童・生徒の読書習慣の確立、読書指導の充実については、学校図書館年間指導計画を作成し、取組を進めてきました。また、多くの小学生・中学生が参加する調べる学習コンクールや中学生によるビブリオバトル⁶大会も開催しました。また、不読率⁷も一部の学年で改善が進みましたが、中学生では不読率の改善が進んでいません。

調べる学習コンクール	平成25年度	平成30年度	増減
応募件数(件)	4,037	5,164	27.9%増

不読率		平成25年度 実績	平成30年度 実績
小学校	3年生	24.2%	18.0%
	4年生	22.6%	18.6%
	5年生	18.1%	16.8%
	6年生	23.1%	20.9%
中学校	1年生	20.5%	20.5%
	2年生	23.0%	21.6%
	3年生	28.6%	32.7%

- (2) 家庭・地域との連携による読書活動の推進については、小学校において、読み聞かせ・ブックトーク⁸活動や学校図書館整備等に関するボラン

⁶ 「ビブリオバトル」: 発表参加者がお気に入りの本を持ち寄り、その面白さ等を5分程度で発表し合い、一番読みたくなった本を、参加者の投票により決定するイベント。「書評合戦」ともいう。

⁷ 「不読率」: 1か月に1冊も本を読まなかった人の割合

⁸ 「ブックトーク」: テーマに沿って何冊かの図書を複数の聞き手に紹介すること。

ティア活動を行いました。

(学校におけるボランティア活動内容(平成29年度調査))

- ・活動回数 主に週1回または隔週1回
- ・活動内容 主に読み聞かせ、図書整理、図書の展示

(3) 子どもの読書活動の推進のための学校図書館等の機能強化については、調べ学習支援として、教科のテーマに応じた授業への資料提供と関連した図書の展示を行いました。

(4) 学校図書館の資料、施設・設備等の整備・充実については、学校図書館図書標準⁹の達成を図るとともに、書架の増設等の設備改善や団体貸出を進めました。さらに、学校図書館連携システムを利用した図書検索、蔵書管理の効率化を図りました。

学校図書館 図書標準	平成25年度	平成30年度	増減
小学校平均(%)	117.5%	120.1%	2.6%pt 増
中学校平均(%)	69.5%	94.5%	25.0%pt 増

学校への団体貸出	平成25年度	平成30年度	増減
貸出冊数[冊]	6,000	30,879	414.7% 増

(5) 学校図書の活用を推進していくための人的配置の推進については、ひきふね図書館から小学校及び中学校の学校図書館に、学校司書を週2日(令和元年度から一部の小学校については週3日)配置しました。

【課題】

- ・不読率の改善を図る必要があります。
- ・学校における読書活動の拠点として、学校図書館図書標準の達成と学校司書の配置、調べ学習で必要となる図書を蔵書するなど学校図書館の整備を推進する必要があります。

⁹ 「学校図書館図書標準」：学校図書館の図書の整備を図る際の目標冊数のこと。

第3 資料等の充実による子どもの読書活動の推進

1 取組

- (1) 区立図書館等の資料の整備・職員の能力向上
- (2) 障害のある子どものための環境の整備・充実
- (3) 地域資料サービスの充実

2 成果

- (1) 区立図書館等の資料の整備・職員の能力向上については、子どもや保護者のリクエストを踏まえて、児童書の選書を進めるとともに、調べる学習コンクールと子育て資料の展示コーナーを設け、それらに関する資料を見つけやすいように工夫しました。また、青少年向けのTS(ティーンズ)コーナーを設け、中学生・高校生が図書館を利用しやすい環境づくりを行いました。さらに、毎年、図書館員が司書資格取得講習を受講するとともに、都立図書館や(財)日本図書館協会の研修を受講し、図書館員としての専門性を高める取組をしました。
- (2) 障害のある子どものための環境の整備・充実については、障害児通所支援の施設への出張読み聞かせと団体貸出を行うとともに、マルチメディアデージー図書¹⁰、L.Lブック¹¹などの障害者向け図書の整備を進めました。
 - (平成30年度実績)
 - ・ 障害児通所支援の施設での読み聞かせ(3施設)
 - ・ 障害児通所支援の施設への団体貸出(5施設、607冊)
- (3) 地域資料サービスの充実については、図書館ホームページに子ども専用のページを設け、利便性の向上を図りました。

【課題】

- ・ 資料の充実の取組については、区立図書館・図書室の児童図書の充実を図りつつ、図書館員の児童図書に関するレファレンス¹²能力のさらなる向上が必要

¹⁰ 「マルチメディアデージー図書」: 音声と音声に合わせたテキストや画像を同期させ画面に表示するデジタル図書

¹¹ 「L.Lブック」: 文字を読んだり、本の内容を理解したりすることが苦手な人が優しく読めるよう、写真や絵、わかりやすい文章などを用いて内容が分かりやすく書かれた本

¹² 「レファレンス」: 図書館司書による調べものの相談

です。

・障害のある子どものための資料の整備と、障害児通所支援の施設への団体貸出と出張読み聞かせの実施及び宅配サービス¹³の実施にはボランティアとの連携を深めていく必要があります。

第4 広報・啓発等による子どもの読書活動の推進

1 取組

- (1) 「子ども読書の日」(4月23日)、「文字・活字文化の日」(10月27日)に合わせた、読書に関する行事の実施及び読書活動の啓発
- (2) 図書館ホームページに、児童及び青少年向け図書、おすすめ図書の情報や行事の情報を掲載

2 成果

読書関係の記念日を中心に読書に関する行事や、図書館ホームページにおいて、子ども読書活動に関する情報を得やすい環境を作りました。

【課題】

・より多くの子どもに区立図書館・図書室を利用してもらうために、図書館利用の魅力をさらに高める広報、啓発が必要です。

¹³ 「宅配サービス」: 図書館に来館するのが困難な方の自宅に、職員が図書館資料を届けるサービス

第5 到達すべき数値目標・実績と課題

1 数値目標と実績

1 区立図書館・図書室の児童書及び絵本の貸出冊数(冊)				
計画策定時 (25年度)	26年度	30年度	目標値 (31年度)	達成率 (30年度時点)
520,000	520,442	652,889	572,000	114.1%
2 区立図書館・図書室の対象者別の延べ貸出者数と延べ貸出冊数				
対象者		30年度	目標値 (31年度)	達成率(30年度時点)
0～6歳	貸出者数(人)	16,627	12,204	136.2%
	貸出冊数(冊)	67,129	58,449	114.9%
7～12歳	貸出者数(人)	47,286	53,258	88.8%
	貸出冊数(冊)	151,257	170,978	88.5%
13～15歳	貸出者数(人)	10,824	10,699	101.2%
	貸出冊数(冊)	28,721	28,201	101.8%
16～18歳	貸出者数(人)	5,997	7,895	76.0%
	貸出冊数(冊)	14,380	19,004	75.7%
合計	貸出者数(人)	80,734	84,056	96.0%
	貸出冊数(冊)	261,487	276,632	94.5%
3 学校への団体貸出冊数(冊)				
	計画策定時 (25年度)	30年度	目標値 (31年度)	達成率 (30年度時点)
小学校	6,000	28,907	30,000	-
中学校		1,972		
合計	6,000	30,879	30,000	102.9%
4 児童・生徒一人あたりの学校図書館 個人への年間貸出冊数(冊)				
	計画策定時 (25年度)	30年度	目標値 (31年度)	達成率 (30年度時点)
小学校	27.8	36.7	40	91.8%
中学校	1.4	2.3	10	23.0%
学校図書館連携システムによる貸出冊数(学校図書館内のみの利用冊数は含まない)				
5 区立小学校(3～6年生)区立中学校の児童・生徒の不読率				
	計画策定時 (25年度)	30年度	目標値 (31年度)	差異%pt (30年度時点)
小学校3年生	24.2%	18.0%	15.0%	-3.0%
小学校4年生	22.6%	18.6%	15.0%	-3.6%
小学校5年生	18.1%	16.8%	15.0%	-1.8%
小学校6年生	23.1%	20.9%	15.0%	-5.9%
中学校1年生	20.5%	20.5%	15.0%	-5.5%
中学校2年生	23.0%	21.6%	20.0%	-1.6%
中学校3年生	28.6%	32.7%	20.0%	-12.7%
(「墨田区学習状況調査の総合意識調査(i-check)」)				
不読率: 小学校3・4年生は1週間、小学校5年生以上は1か月に1冊も読まなかった割合				

平成30年度の達成状況からみて、

- ・「1 区立図書館・図書室の児童書及び絵本の貸出冊数」と「3 学校への団体貸出冊数」は、計画目標を達成しました。
- ・「区立図書館・図書室の対象者別の延べ貸出者数と延べ貸出冊数」は、計画目標を9割達成しています。
- ・「4 児童・生徒一人あたりの学校図書館年間貸出冊数」では、計画目標を小学校では9割達成していますが、中学校では2割に低迷しています。
- ・「5 区立小学校（3～6年生）区立中学校の児童・生徒の不読率」については、不読率は小学校3～6年生では改善が進んでいますが、中学校では高止まりする傾向にあり、依然として改善は進んでいません。

【課題】

- ・児童・生徒の不読率は、学校段階が進むにつれ、その割合が高まり、高止まりする傾向があることから、改善を図る取組を進める必要があります。
- ・学校図書館の年間貸出冊数では中学校での貸出が進んでいないことから、中学校の学校図書館を多くの生徒が利用する環境整備が必要です。

第3章 子ども読書活動推進計画（第4次）

第1 基本方針

計画（第3次）では、家庭、地域、学校、資料、広報・啓発等での各事業の取組が着実に進んできましたが、不読率の改善が主要な課題です。

不読率については、「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成30年4月、文部科学省）では、不読率の改善のためには、中学生までの読書習慣¹⁴の形成を一層効果的に図る必要があります、「乳幼児期から、子供の実態に応じて、子供が読書に親しむ活動を推進していく必要がある。」（同計画P7）としています。また、「第三次東京都子供読書活動推進計画」（東京都教育委員会、平成27年2月）でも、子どもの成長に応じた不読率の改善、読書の質の向上と読書環境の整備を基本方針として取組が進められています。

このような国及び都の計画を基本として、本計画では、これまでの取組の成果及び課題を踏まえ、条例第3条（基本理念）に沿って、基本方針を以下のとおりとします。

（基本方針）

読書を通じて、子どもが生きる力を育み、健やかに成長し、豊かな人生を送ることができるように家庭、地域、学校、図書館等が連携して読書習慣の形成を図るとともに、読書環境の整備に取り組む。

¹⁴ 「読書習慣」：発達段階に応じて読書し読書が好きになること（「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」文部科学省、平成30年4月 P7）

第2 基本目標

このような基本方針に沿った取組を行うため、以下を本計画の基本目標として掲げ、子どもの読書活動の推進に関わる施策を総合的かつ計画的に、関係機関が連携・協力して推進していくこととします。

（基本目標）

（１）読書活動の機会の充実と啓発

発達段階に応じた読書習慣の形成を図るために、家庭、地域、学校、図書館等の連携・協力により、読書活動の機会の充実と啓発を行います。

（２）読書環境の整備

家庭、地域、学校、図書館等の連携・協力により、子どもの読書環境を整備します。また、学校図書館の整備と活用を図ります。

（３）読書活動を支える人材育成

図書と子どもをつなぐ人材を育成し、読書活動の充実を図ります。

第4章 子ども読書活動推進のための施策及び目標値

第1 取組の方向性

本計画では子どもの発達段階に応じて、取組の方向性を4つに分けました。

(取組の方向性)

A 乳幼児期の読書活動の推進

家庭や地域での読み聞かせ等を通じて、子どもが図書の豊かな言葉や世界と出会えるように読書活動の取組を進める。

B 小学生期の読書活動の推進

自ら図書を選ぶ楽しさ、読書を通じた活動の面白さを体験するために、学校図書館を通じて、授業や調べ学習を中心とした読書活動の取組を進める。

C 中学生・高校生期の読書活動の推進

他者とのやり取りを通じて、論理的な思考を養い、自らの考えを深める活動を支援する取組を進める。

D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進

特別な支援を要する子どもに十分に配慮するとともに、障壁のない読書サービスを提供する取組を進める。

第2 実施する施策

□取組の方向性A 乳幼児期の読書活動の推進

乳幼児期においては、保護者等身近な大人から子どもへの読み聞かせなど、一緒に絵本に触れ、時間を共有することで、豊かな感情が育まれるとともに、大人からの愛情を感じることで、自己肯定感を強めることができるようになります。乳幼児期の読書活動においては、大人のかかわりが子どもの読書活動と大きく関わることから、大人が積極的に子どもに対して読書活動を進めることが大切です。

取組の方向性の目標	・乳幼児の貸出者数を1.5倍にする。 平成30年度 16,627人 令和6年度 25,000人 ・乳幼児への図書貸出冊数を1.5倍にする。 平成30年度 67,129冊 令和6年度 101,000冊
-----------	---

(A-1) 読書活動の機会の充実と啓発

家庭においては、子どもの読書活動への保護者の理解が大切です。地域や区立図書館・図書室では、保護者が自ら進んで読書活動を進められるように支援します。保護者も参加する地域の行事における読書の啓発活動やブックスタート事業¹⁵の啓発活動を行い、保護者に図書のある環境での子育てについて考えてもらうような取組を行います。

また、家庭における読書活動の推進を図るために、おうちDeどくしょノート¹⁶を活用した取組、絵本のレファレンスやブックリスト¹⁷の配布を通じて、発達段階に応じた図書に関する情報提供を行います。

□家庭での取組

子どもの読書活動について理解すること
保護者がわらべうたや絵本の読み聞かせをして、子どもが言葉や読書に興味をもつこと
図書館で子どもと一緒に図書を選ぶこと

¹⁵ 「ブックスタート事業」：読書のきっかけづくりのために、乳幼児健診で絵本を開く楽しい体験と絵本をセットでプレゼントする事業。墨田区では保健センターの乳幼児健診時に図書館・図書室が実施。

¹⁶ 「おうちDeどくしょノート」：親子の読書活動を進めるために、図書館が作成し、配布している読書ノート

¹⁷ 「ブックリスト」：年齢層やテーマに沿った、図書館が勧める図書のリスト

子どもの好きな図書を繰り返し読み聞かせすること
おうち De どくしょノートを活用して、家族で一緒に読書を楽しむこと
保護者同士での情報交換（良書の紹介、家庭での読書実践など）

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
定期的な読み聞かせ	—	実施	実施
保護者も参加する行事におけるブックトーク【新規】	—	—	実施
図書館見学を通じた図書に触れ合う機会の増加	—	実施	実施

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
児童書及び絵本の普及【拡充】	児童書及び絵本の貸出冊数	6 5 2 , 8 8 9 冊	9 8 0 , 0 0 0 冊
絵本にかかわるレファレンス	—	実施	実施
絵本に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	4 , 0 0 0 枚	4 , 5 0 0 枚
おはなし会、工作会等の開催【拡充】	開催数	4 3 6 回	5 0 0 回
ブックスタート事業の実施	—	実施	実施

（ A - 2 ）読書環境の整備

家庭においては、子どもへの読み聞かせや子どもが絵本を手にとれるような環境づくりが大切です。また、地域においては、保育園と幼稚園等の施設の状況に応じて団体貸出を行い、読書活動が円滑に行われるよう読書環境の整備に取り組めます。さらに、区立図書館・図書室においては、児童書の充実とともに、絵本・子育て関連図書の貸出セットを用意し、保護者が手軽に借りられるようにします。

□家庭での取組

図書を収納する箱や書棚を用意するなど、子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくり
--

□地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
保育所保育指針等に基づく読書に親しむ環境づくり	—	実施	実施
月齢や年齢に応じた図書を子どもが手軽に手に取れるような環境づくり	—	実施	実施
貸出用図書コーナーの設置	—	実施	実施
団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	76施設	106施設 (幼稚園、保育園、認定こども園、児童館、児童施設等)

□区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
年齢に応じた図書の収集と提供【拡充】	児童書及び絵本冊数	217,013冊	241,000冊
リサイクル図書の提供	—	実施	実施
本棚の作り方のPR【新規】	—	—	実施
絵本・子育て関連図書貸出セット【新規】	セット数	—	100セット

(A-3) 読書活動を支える人材育成

家庭においては、保護者がおはなし会や読み聞かせ講座を通じて、読書の楽しさを体験し、子どもがどのような図書に興味をひかれているのかを知ること、子どもへの読み聞かせを行うきっかけとなります。地域では、職員の読み聞かせ技術の向上や読書ボランティアの活用を図ります。また、区立図書館・図書室では、地域での読書活動を進めるために、読み聞かせボランティア講座の開催、絵本のレファレンス研修やブックトークなどの読み聞かせ技法の研修に取り組みます。

□家庭での取組

図書館でのおはなし会や読み聞かせ講座に参加し、子どもがどのような図書に興味をひかれるのかを知ること

□地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
職員の読み聞かせ技術の向上		実施	実施
読み聞かせボランティアの活用		実施	実施

□区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読み聞かせボランティア養成講座【拡充】	開催数	1 回	4 回
絵本のレファレンス研修【新規】	開催数	—	1 回
ブックトーク、ストーリーテリング ¹⁸ 等の技法の研修		実施	実施

□取組の方向性 B 小学生期の読書活動の推進

小学生期において、自ら図書を選ぶ楽しさ、読書を通じた活動の面白さを体験するために、学校図書館を通じて、授業や調べ学習を中心とした読書活動の取組を進めます。また、小学校の学習において、令和 2 年度から実施される新学習指導要領では、「主体的・対話的・深い学び」が授業改善の指針に上げられ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の 3 つの能力の資質向上が求められています。学校が授業において、情報を活用した問題解決型の学習を展開するためには、文字の情報源から求める情報を得ることが基本となります。その際、言語から情報を読み取ることに慣れることで、大量の情報から必要情報を容易に選び出すことができます。さらに、多様化する情報発信手段を使いこなすためには、より高い情報活用能力が必要です。子どもの読書活動が図書を読むことだけに限定されるのではなく、子ども同士が読書に関する話し合いや調べ学習等の発表を行うなど、読書をめぐる活動そのものに子どもが主

¹⁸ 「ストーリーテリング」：物語を覚えて子どもたちに対して語ること。

体的に係わることで、思考力、判断力や表現力が養われ、情報活用能力を育てることにつながります。

特に、不読率の改善にあたっては、児童を読書に親しむ環境を整える必要があります。それは、図書があること、図書と児童・生徒をつなぐ人がいること、読書の時間を確保すること、読む場所があることの4つの環境の整備に取り組みます。

取組の方向性の目標		不読率を平成25年度比で、令和6年度には半減させる。			
		不読率			
			平成25年度実績	平成30年度実績	令和6年度目標
小学校	3年生		24.2%	18.0%	12.1%
	4年生		22.6%	18.6%	11.3%
	5年生		18.1%	16.8%	9.1%
	6年生		23.1%	20.9%	11.6%
	1年生		20.5%	20.5%	10.3%
	2年生		23.0%	21.6%	11.5%
	3年生		28.6%	32.7%	14.3%

(B-1) 読書活動の機会の充実と啓発

家庭においては、「おうちDeどくしょノート」を活用し、家族と一緒に読書を楽しみ、家族の愛読書や読書で面白かった読書経験を子どもに話すことで、子どもに読書は楽しく面白いものであると感じてもらうことが大切です。また、地域でも読み聞かせやブックトーク、図書館見学を通して、子どもが図書に触れる機会を増やすことが必要です。

学校においては、学校図書館年間指導計画に基づく学習活動を通じて、学校図書館の授業での活用、読書に関する啓発活動を通して、読書に親しむ取組を進めます。また、区立図書館・図書室においては、ブックリストで子どもと保護者に図書を紹介するとともに、お話し会や工作会を通じて、読書活動の啓発と機会の提供に取り組みます。

□ 家庭での取組

子どもに図書館の利用を勧めること
子どもの好きな図書を繰り返し読み聞かせすること
おうちDeどくしょノートを活用して家族で一緒に読書する機会を持つこと

子どもに家族の愛読書や面白かった読書経験を伝えること
保護者同士の情報交換（良書の紹介、家庭での読書実践など）

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
定期的な読み聞かせ	—	実施	実施
ブックトークやアニメーション ¹⁹ の実施	—	実施	実施
図書館見学を通じた図書に触れ合う機会の増加	—	実施	実施

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読書指導	—	実施	実施
朝読書等の時間を活用した読書活動	—	実施	実施
授業における学校図書館活用の促進	—	実施	実施
読書に関する啓発、イベントの実施	—	実施	実施
下級生や幼稚園及び保育園での読み聞かせ	—	実施	実施
委員会活動での図書の紹介	—	実施	実施
学校図書館での工作会やお楽しみ会等イベントの実施	—	実施	実施
読書マラソン ²⁰	—	実施	実施
季節等に合わせたお勧め図書の展示	—	実施	実施
ブックトークやアニメーション等の実施	—	実施	実施
調べる学習コンクールへの参加	—	実施	実施

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
----	--------	-----------------	----------------

¹⁹ 「アニメーション」：事前に本を読み、その内容に関してゲームをすること。

²⁰ 「読書マラソン」：自分が読んだ図書の感想をPOPカード等にまとめる読書イベント

児童書及び絵本の普及【拡充】	児童書及び絵本の貸出冊数	652,889冊	980,000冊
児童書に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	16,000枚	16,700枚
パスファインダー ²¹ の製作と配布【新規】	種類数	—	100種類
お話し会、工作会等の開催【拡充】	開催数	32回	40回

(B-2) 読書環境の整備

家庭においては、ブックリストを参考に子どもと一緒に選書することや子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくりが大切です。また、地域においては、子どもが手軽に図書を手に取れるように、図書コーナーの充実に取り組みます。

さらに、学校においては、学校司書の配置の充実を図るとともに、調べ学習に役立つ図書の整備、学校図書館オリエンテーション²²の取組を行うとともに、図書分類のバランスに配慮し、学校図書館の蔵書の充実を進めます。そして、区立図書館・図書室においては、児童書の充実に努めます。

□家庭での取組

ブックリストを参考に子どもと一緒に選書すること
図書を収納する箱や書棚を用意するなど、子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくり

□地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成30年度 現状値	令和6年度 目標値
子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくり	—	実施	実施
貸出用図書コーナーの設置【拡充】	—	実施	実施
団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	9施設	16施設 (児童館、児童施設等)

²¹ 「パスファインダー」：図書館において、特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方を提供する文書

²² 「学校図書館オリエンテーション」：図書館利用のために、図書の配列や貸出方法等を案内すること

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
学校司書の配置の充実 【拡充】	3 日 / 週に配置 している学校数	8 校	25 校（小学校）
調べ学習用図書の整備	—	実施	実施
学校図書館オリエンテ ーションの実施	-	実施	実施
学級文庫の充実	-	実施	実施

□ 学校図書館での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
蔵書管理の適正化	図書標準達成率	120 %	維持
選書及び除籍の管理	—	実施	実施
情報資源の整備	—	実施	実施
新聞の設置【拡充】	設置学校数	12 校	25 校（小学校）

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
児童書の収集と提供 【拡充】	児童書及び絵本 冊数	217,013 冊	241,000 冊
リサイクル図書の提供 【拡充】	提供冊数	8,500 冊	10,000 冊

（ B - 3 ）読書活動を支える人材育成

家庭においては、お話し会等を通じて、子どもがどのような図書に興味が
ひかれるのかを知ってもらうことが大切です。また、地域においては、読み
聞かせ等を行うボランティアなど、地域の幅広い人材を活用する取組を進め
ます。さらに、読書活動の担い手の一人として、施設の職員の読み聞かせ技
術の向上を図ります。

学校においては、児童の読書活動を推進するために、読み聞かせボランテ
ィアを活用します。そして、区立図書館・図書室においては、図書館員の児

童書のレファレンス研修を通して、人材育成に取り組みます。

□ 家庭での取組

お話し会等に参加し、子どもがどのような図書に興味をひかれるのかを知ること

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読み聞かせボランティアの活用	—	実施	実施
職員の読み聞かせ技術の向上	—	実施	実施

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読み聞かせボランティアの活用	—	実施	実施

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
児童書に関するレファレンス研修【新規】	開催数	—	1 回

□ 取組の方向性 C 中学生・高校生期の読書活動の推進

中学生・高校生期においては、共感したり、感動したりすることができる図書を選んで読むようになり、自己の将来について考え始めるようになることから、読書を将来に役立てたいと思うようになります。また、高校生期においては、読書の目的、資料の種類に応じて図書を適切に取捨選択し、自己の知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。

一方で、部活動や進学・就職準備等で読書する時間が確保しにくくなる時期でもあるため、それまでの読書習慣が途絶えがちになる子どもが増えていきます。読書するためには、家庭や学校において読書をする環境づくりや、本人の興味に応じた図書を紹介するような働きかけが必要になります。また、読書活動においては、友人等同世代の者から受ける影響が大きいことから、子ども同

士で図書を紹介しあうなどの取組の充実が求められます。

特に、不読率の改善にあたっては、生徒を読書に親しむ環境を整える必要があります。それは、図書があること、図書と児童・生徒をつなぐ人がいること、読書の時間を確保すること、読む場所があることの4つの環境の整備に取り組めます。

取組の方向性 の目標	不読率を平成 25 年度比で、令和 6 年度には半減させる。				
	不読率				
			平成25年度 実績	平成30年度 実績	令和6年度 目標
	小学校	3 年生	24.2%	18.0%	12.1%
		4年生	22.6%	18.6%	11.3%
		5年生	18.1%	16.8%	9.1%
		6年生	23.1%	20.9%	11.6%
	中学校	1年生	20.5%	20.5%	10.3%
		2年生	23.0%	21.6%	11.5%
		3年生	28.6%	32.7%	14.3%

(C-1) 読書活動の機会の充実と啓発

家庭においては、家族の愛読書や読書で面白かった経験を子どもに話すことで、読書は楽しく面白いものであると子どもが感じられるようなことが大切です。また、地域では児童館等で図書に触れる機会を増やすことが必要です。

学校においては、学校図書館年間指導計画に基づく学習活動のなかで、学校図書館の授業での活用、ブックトーク、アニメーション等の活動を通して、読書に親しむ取組が必要です。また、区立図書館・図書室においては、青少年向け図書のレファレンスを充実させるとともに、パスファインダーの提供による調べ学習を支援します。中学生・高校生は一定の読書経験を有していることから、自分が好きだった絵本や児童書を題材にしたPOPコンテスト²³を通して、図書を紹介する取組を進めます。

□家庭での取組

子どもに図書館を利用することを勧めること

²³ 「POPコンテスト」：POPとは、図書を読んだ人が他の人にその図書の何にどう心を動かされたかを短いフレーズに思いを込めて伝えるもの。はがき1枚にイラストと文言で表現する。毎年、ひきふね図書館でコンテストを開催。

子どもと一緒に図書館に行き、家族の愛読書や面白かった体験を伝えること
家族と一緒に読書する機会を持つこと
子どもと同じ図書を読んで、子どもと感想を語り合うこと
保護者同士の情報交換（良書の紹介、家庭での読書実践など）

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
児童館等で、図書に触れ合う機会を増やす	—	実施	実施

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読書指導	—	実施	実施
朝読書等の時間を活用した読書活動	—	実施	実施
多様な読書スタイルの啓発【新規】	—	—	実施
授業における学校図書館活用の促進	—	実施	実施
読書に関する啓発、イベントの実施	—	実施	実施
下級生や幼稚園及び保育園での読み聞かせ	—	実施	実施
委員会活動による図書の紹介	—	実施	実施
学校図書館でのお楽しみ会等イベントの実施	—	実施	実施
生徒による読書会の開催	—	実施	実施
読書マラソン	—	実施	実施
季節等に合わせたお勧め図書の展示	—	実施	実施
ブックトークやアニメーション等の実施	—	実施	実施
調べる学習コンクールへの参加	—	実施	実施
ビブリオバトル大会の開催	—	実施	実施

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
----	--------	-----------------	----------------

青少年向け図書にかかわるレファレンス	—	実施	実施
青少年向け図書に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	18,000枚	20,000枚
パスファインダーの製作と配布【新規】	製作数	—	100図書
中学生・高校生の読書活動に関する情報発信	—	実施	実施
P O P コンテスト（絵本以外）	—	実施	実施
P O P コンテスト（絵本）【新規】	—	—	実施

（Ｃ－２）読書環境の整備

家庭においては、ブックリストを参考に選書のアドバイスをすることや家庭で子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくりが大切です。また、地域においては、子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくりに取り組みます。

さらに、学校においては、学校司書の配置の充実を図るとともに、図書分類のバランスに配慮し、学校図書館図書標準による蔵書の充実に努めます。そして、区立図書館・図書室においては、青少年向け図書の充実に努めるとともに、団体貸出等による学校図書館への支援に取り組みます。

□家庭での取組

ブックリストを活用した選書のアドバイス
図書を収納する箱や書棚を用意するなど、子どもが手軽に手に取れるような環境づくり

□地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成30年度 現状値	令和6年度 目標値
子どもが手軽に手に取れるような環境づくり	—	実施	実施
貸出用図書コーナーの設置	—	実施	実施
団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	9施設	11施設 （児童館）

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
学校図書館年間指導計画に基づく運営	—	実施	実施
学校司書の配置の充実	配置日数	2 日	3 日
調べ学習用図書の整備	—	実施	実施
図書館オリエンテーションの実施	—	実施	実施
学級文庫の充実	—	実施	実施

□ 学校図書館での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
蔵書管理の適正化	学校図書館図書 標準達成率	94.5%	100%
選書及び除籍の管理	—	実施	実施
情報資源の整備	—	実施	実施
新聞の設置【拡充】	設置学校数	6 校	10 校（中学校）

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
青少年向け図書コーナーの設置	—	実施	実施
リサイクル図書の提供	—	実施	実施

（Ｃ－３）読書活動を支える人材育成

家庭においては、青少年向け図書のブックリストを通じて、子どもがどのような図書に興味をひかれるのかを知ってもらうことが大切です。また、地域においては、読書勉強会の参加など施設の職員が読書活動についての知識を深める取組を進めます。

学校においては、学校司書、地域のボランティア等と連携・協力して、読み聞かせボランティアの活用を進めます。

区立図書館・図書室においては、中学生・高校生向け読書講座、図書館を

使った情報活用講座に取り組みます。

□ 家庭での取組

青少年向け図書のブックリストを通じて、子どもがどのような図書に興味
がひかれるのかを知ること

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
職員の読み聞かせ技術 の向上【新規】	—	—	実施

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
読み聞かせボランティア の活用【新規】	-	—	実施

□ 区立図書館・図書室での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
中学生・高校生向け読 書講座【新規】	開催数	—	4 回
図書館を使った情報活 用講座【新規】	開催数	—	2 回
青少年向け図書に関す るレファレンス研修 【新規】	開催数	—	1 回

□取組の方向性D 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進

バリアフリーの視点から、身体及び知的等の障害、ディスレクシア²⁴等の読書障害により読書活動に支援が必要となる子ども及び外国にルーツを持つ子どもなど、特別な支援を必要とする子どもの読書活動の取組を推進します。

取組の方向性の目標	・18歳以下の障害をもつ子どもを対象に、10年間で図書館サービスを普及する。 平成30年度利用者14人 令和6年度275人 令和11年度550人 ・外国語絵本の蔵書数を1.5倍に増やす。 平成30年度末2,066冊 令和6年度3,000冊
-----------	--

(D-1) 読書活動の機会の充実と啓発

家庭においては、子どもと一緒に読書を楽しんでもらうことが大切です。また、地域及び学校においては、個々の子どもに合わせた読み聞かせに取り組みます。

区立図書館においては、障害に応じた図書のレファレンスや情報提供、外国語図書のレファレンスや外国にルーツを持つ子どもと保護者のために図書館利用ガイダンスを行います。

□家庭での取組

子どもと一緒に図書館を利用すること
子どもと同じ図書を読んで、子どもと読書を楽しむこと

□地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成30年度 現状値	令和6年度 目標値
個々の子どもに合わせた読み聞かせ【拡充】	—	実施	実施

²⁴ 「ディスレクシア」：学習障害の一種で、知的能力及び理解能力などに異常がないにもかかわらず、字の読み書き学習に困難を抱える障害

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
特別支援学級でのお話し会の実施【新規】	実施校数	—	13 施設 (特別支援学級)

□ 区立図書館での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
障害に応じた図書のレファレンス及び情報提供	—	実施	実施
外国語図書に関するレファレンス及び情報提供	—	実施	実施
外国にルーツを持つ子どもと保護者のための図書館利用ガイダンス【新規】	実施回数	—	4 回

(D - 2) 読書環境の整備

家庭においては、家族と一緒に読書する機会と子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくりが大切です。また、地域や学校では、個々の子どもに応じた図書を用意し、子どもが手軽に手に取れる環境づくりをすることや団体貸出の利用による図書の充実を図ります。区立図書館では、個々の子どもに応じた利用環境の整備と図書の宅配サービスを進めます。

□ 家庭での取組

図書を収納する箱や書棚を用意するなど、子どもが手軽に図書を手に取れるような環境づくり

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
個々の子どもに応じた図書を用意し、子どもが手軽に手に取れるような環境づくり	—	実施	実施
貸出用図書コーナーの設置	—	実施	実施

団体貸出を利用した図書の充実	—	実施	実施
----------------	---	----	----

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
児童・生徒のニーズに応じた内容・程度、興味に応じた資料の整備	-	実施	実施

□ 区立図書館での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
図書館の利用環境の整備	—	実施	実施
外国語の図書の充実	—	実施	実施
図書の宅配サービス	—	実施	実施

(D - 3) 読書活動を支える人材育成

地域においては、障害のある子どもへの読み聞かせの取組を進めるとともに、学校では障害児読書ボランティアの活用を進めます。

区立図書館では、音訳や点訳、拡大図書制作等に係わるボランティアの育成と活動支援を引き続き進めます。また、外国にルーツを持つ子どもの読書相談等に対応できるように、外国の図書のレファレンスを行える人材を育成します。

□ 地域における施設での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
職員の読み聞かせ技術の向上【新規】	—	—	実施

□ 学校での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
障害児読書ボランティアの活用	—	実施	実施

□ 区立図書館での取組

施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
----	--------	-----------------	----------------

施設職員向け読み聞かせ技術講座【新規】	研修実施回数	—	2 回
障害者図書制作ボランティアの育成	-	実施	実施
図書館員向け外国語の図書に関するレファレンス研修【新規】	研修実施回数	—	2 回

第5章 家庭、地域及び学校等での取組を支援するための施策

条例第12条に基づき、区立図書館は、子ども読書活動の推進に資するために、図書その他資料を充実するとともに、子どもに対して図書館奉仕の充実を図るほか、子ども読書活動推進の中心となり、家庭、地域、学校が行う読書活動を支援します。

第1 乳幼児期の読書活動への支援

乳幼児期では、出産前の方やその家族に対する読書活動啓発、ブックリストの配布やブックスタート事業などの取組を通じて、家庭における読書活動を支援します。

また、保育園や児童館などが施設の状況やニーズに合わせて読書活動を進めることができるよう支援を行います。図書館員や読書ボランティアによる出張読み聞かせや団体貸出などの支援に加えて、施設職員の読み聞かせのスキルアップを図るための講座を開催します。

		施策	施策目標指標	平成30年度 現状値	令和6年度 目標値
家庭での取組への支援	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	出産準備クラスの読書活動啓発【新規】	—	—	実施
		読書のすすめ講座【新規】	開催数	—	4回
		絵本に関する情報提供(再掲)【拡充】	ブックリスト配布数	4,000枚	4,500枚
		おうちDeどくしょノートの配布【拡充】	ノート配布数	1,800部	2,000部
		ブックスタート事業の実施	—	実施	実施
	(2) 読書環境の整備	親子で読書をするためのPR活動	—	実施	実施
		読書活動習慣化を図るための読書時間の確保のPR	—	実施	実施
	(3) 読書活動を支える人材育成	子どもの読書に関する講座【拡充】	開催数	1回	4回
		絵本に関する理解講座【拡充】	開催数	1回	4回

地域での取組への支援	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	出張読み聞かせ会の開催【拡充】	見学施設数	2 施設	1 2 施設 (児童館等)
		絵本のブックリストの配布	—	実施	実施
	(2) 読書環境の整備	団体貸出による読書環境の充実支援【拡充】	団体貸出冊数	10,276 冊	16,000 冊
		リサイクル図書の提供【拡充】	提供冊数	8,500 冊	10,000 冊
	(3) 読書活動を支える人材育成	施設職員向け読み聞かせスキル向上のための講座【新規】	開催数	—	4 回

第 2 小学生期の読書活動への支援

小学生期では、家庭への支援として、児童書のブックリスト、おうち De どくしょノートの配布を行います。また、子どもたちに図書館利用の面白さ、楽しさを感じてもらう図書館員体験を実施します。

地域への支援として、児童館などが施設の状況やニーズに合わせた読書活動を進めることができるように支援します。図書館員や読書ボランティアによる出張読み聞かせや団体貸出などの支援に加えて、施設職員の読み聞かせの向上を図るための読書講座を開催します。

学校への支援として、学校図書館の運営を図るために学校司書の配置を充実していくとともに、学校図書館の授業活用が積極的に図られるように、調べ学習の支援や学校図書館の選書支援を行っていきます。また、学校図書館担当教諭研修会への協力をはじめ、学校司書と図書館司書の意見交換を行い、学校図書館運営の情報共有体制を整えていきます。さらに、調べ学習については、調べる学習コンクールでの個別相談会の実施や作品展示などで協力をしていきます。

		施策	業績評価指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
家庭での取組への支援	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	おうち De どくしょノートの配布(再掲)【拡充】	ノート配布数	1,800 部	2,000 部
		図書館員体験【拡充】	参加者数	10 人	50 人
		児童書に関する情報提供(再掲)【拡充】	ブックリスト配布数	16,000 冊	
	(2) 読書環境の整備	親子で読書の PR 活動	—	実施	実施
	(3) 読書活動を支える人材育成	子どもの読書に関する講座【拡充】	開催数	3 回	6 回
地域での取組への支援	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	出張読み聞かせ・ブックトークの開催【拡充】	施設数	1 施設	10 施設(児童館等)
	(2) 読書環境の整備	団体貸出による読書環境の充実支援【拡充】	団体貸出冊数	3,168 冊	4,800 冊
		リサイクル図書の提供	—	実施	実施
	(3) 読書活動を支える人材育成	施設職員向け読み聞かせスキル向上のための講座【新規】	開催数	—	2 回
		読み聞かせボランティアの育成講座【新規】	開催数	—	2 回
学校での取組への支援	(1) 読書活動の機会の充実と啓発	出張読み聞かせ・ブックトークの開催	—	実施	実施
		調べ学習の支援	—	実施	実施

	(2) 読書環境の整備	学校図書館司書の配置及び学校図書館運営支援【拡充】	配置日数	週 2 日	週 3 日
		選書支援	随時	—	—
		団体貸出による図書の充実支援【拡充】	貸出冊数	28,907 冊	43,500 冊
		授業参考図書の整備	実施	—	—
	(3) 読書活動を支える人材育成	読み聞かせボランティア養成講座【拡充】	参加者数	57 人	110 人
		学校図書館担当教諭研修会の協力	—	実施	実施
		学校司書意見交換会の開催【拡充】	開催回数	1 回	2 回
		調べる学習コンクールでの個別相談会や作品展示での協力	-	実施	実施

第 3 中学生・高校生期の読書活動への支援

中学生・高校生期では、子ども自身が関心や興味に応じて必要な図書を自ら選び、読書をするというスタイルを確立する時期であることから、家庭への支援として、青少年向けのブックリストを配布し、日常生活時間の中で読書時間を設けることを心がけてもらえるように啓発を進めます。

地域への支援として、児童館等が青少年向け図書を充実できるように団体貸出も含めて支援を行うとともに、ブックトークの実施やブックリストの配布を通して、読書の啓発を進めます。

学校への支援として、学校図書館の運営の充実を図るために学校司書の配置を充実していくとともに、学校図書館の授業活用が積極的に図られるために、調べ学習への支援や学校図書館の選書支援を行っていきます。また、学校図書館担当教諭研修会への協力をはじめ、学校司書と図書館司書の意見交換を行い、学校図書館運営の協力体制を整えていきます。さらに、調べ学習については、調べる学習コンクールでの個別相談会の実施や作品展示などで協力をしていきます。

		施策	施策目 標指標	平成 30 年 度 現状値	令和 6 年 度 目標値
家庭 での 取組 への 支援	(1) 読書活 動の機 会の充 実と啓 発	青少年向け情報誌 「 1 0 代のための本棚 」 の配布	—	実施	実施
	(2) 読書環 境の整 備	親子で読書の PR 活動	-	実施	実施
		読書時間確保の PR	-	実施	実施
	(3) 読書活 動を支 える人 材育成	青少年向け読書に関する 講座【新規】	開催数	—	4 回
地域 での 取組 への 支援	(1) 読書活 動の機 会の充 実と啓 発	出張読み聞かせ・ブック トークの開催【新規】	施設数	—	12 施設 (児童館 等)
		青少年図書のブックリス トの配布	—	実施	実施
	(2) 読書環 境の整 備	リサイクル図書の提供	—	実施	実施
	(3) 読書活 動を支 える人 材育成	施設職員向け読み聞かせ スキル向上のための講座 【新規】	開催数	—	4 回
学校 での 取組 への 支援	(1) 読書活 動の機 会の充 実と啓 発	出張読み聞かせ・ブック トークの開催	—	実施	実施
		調べ学習への支援	—	実施	実施
		ビブリオバトル大会への 協力	—	実施	実施
		職場体験	-	実施	実施

	(2) 読書環境の整備	学校図書館司書の配置及び学校図書館運営支援【拡充】	配置日数	週 2 日	週 3 日
		選書支援	—	実施	実施
		団体貸出による図書の充実支援【拡充】	貸出冊数	1,972 冊	3,000 冊
		授業参考図書の整備	—	実施	実施
	(3) 読書活動を支える人材育成	学校図書館担当教諭研修会の協力	—	実施	実施
		学校司書意見交換会の開催	開催数	1 回	2 回
		調べる学習コンクールでの個別相談会や作品展示での協力	—	実施	実施

第 4 特別な支援を必要とする子どもの読書活動への支援

家庭への支援として、個々の子どもに応じた図書の情報提供を進めるとともに、読書をより楽しんでもらえるように図書館ツアーを行います。

地域への支援として、障害者通所支援の施設で、障害に応じた読み聞かせを実施します。また、さまざまな障害者向け資料を紹介するとともに、図書に触れる機会を提供します。例えば、普通の活字の図書を読むことが苦手なディスレクシアの子どもに対しては、マルチメディアデージー図書の活用を進めるなどして、すべての子どもが読書の喜びに出会えるように支援します。

		施策	施策目標指標	平成 30 年度 現状値	令和 6 年度 目標値
家庭での取組への支援	(1) 読書活動の機会 の充実と啓発	個々の子どもに応じた図書館ツアー【新規】	参加回数	—	2 回
		障害者図書に関する情報提供	—	実施	実施
	(2) 読書環境の整備	読書相談会【新規】	開催回数	—	2 回
	(3) 読書活動を支える 人材育成	図書の紹介講座【新規】	開催回数	—	2 回
		読み聞かせスキルに関する読書講座【新規】	開催回数	—	2 回

		図書館員体験 【新規】	参加者数	—	8人
地域での 取組への 支援	(1) 読書活動 の機会の 充実と啓 発	出張読み聞かせの開 催	—	実施	実施
		障害者向け資料の紹 介【新規】	—	—	実施
		図書に関する情報提 供	—	実施	実施
	(2) 読書環境 の整備	団体貸出による読書 環境の充実支援【新 規】	団体貸出 数	—	500冊
	(3) 読書活動 を支える 人材育成	施設職員向け読み聞 かせスキルに関する 読書講座【新規】	開催回数	—	2回
学校での 取組への 支援	(1) 読書活動 の機会の 充実と啓 発	出張読み聞かせの開 催【拡充】	開催回数	4回	16回

第9回 「墨田区 図書館を使った調べる学習コンクール」参加児童・生徒数等一覧

1 参加児童・生徒数

(単位:人)

参加児童・生徒総数	内訳	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度年度比
4,970人	小学校1・2年生の部			294	362	568	596	542	452	446	0.99倍
	小学校3・4年生の部			1,002	1,213	1,265	1,565	1,245	1,152	1,365	1.18倍
	小学校5・6年生の部			1,589	1,258	1,650	1,541	1,446	1,389	1,559	1.12倍
	中学生の部			1,026	1,558	2,294	2,439	2,306	2,296	1,600	0.70倍
	総計	1,316	2,778	3,911	4,391	5,777	6,141	5,539	5,289	4,970	0.94倍

2 作品数

(単位:点)

総作品数	内訳	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度年度比
4,981点	小学校1・2年生の部			294	362	568	596	542	452	446	0.99倍
	小学校3・4年生の部			1,004	1,213	1,166	1,565	1,245	1,152	1,374	1.19倍
	小学校5・6年生の部			1,590	1,258	1,567	1,541	1,446	1,389	1,559	1.12倍
	中学生の部			1,149	1,429	2,053	2,439	2,275	2,171	1,602	0.74倍
	総計	1,363	2,650	4,037	4,262	5,354	6,141	5,508	5,164	4,981	0.96倍

全国コンクールへの出品可能数は、応募総数の2%(小数点切上げ)です。 $4,981 \times 0.02 = 99.62 \rightarrow 100$ 点

全国出品数	52点	52点	104点	122点	110点	103点	100点
	(金,銀,銅)	(金,銀,銅)	(金,銀,銅努力)	(金,銀,銅努力)	(金,銀,銅努力)	(金,銀,銅努力)	(金,銀,銅努力)

3 地域コンクール応募数

(単位:点)

応募総数	内訳	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度年度比
260点	小学校1・2年生の部			27	39	60	56	62	68	54	0.79倍
	小学校3・4年生の部			53	49	78	79	78	75	79	1.05倍
	小学校5・6年生の部			43	41	69	74	76	75	73	0.97倍
	中学生の部			29	18	26	51	55	50	54	1.08倍
	総計			152	147	233	260	271	268	260	0.97倍

区の応募規定により、小学校は各校各部門につき2点以内に、部門に関係なく3点以内を加えた合計9点以内、中学校は各校6点以内の応募が可能

4 地域コンクール応募校数

(単位:校)

応募校総数	内訳	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
35校	小学校1・2年生の部			22	21	25	24	25	25 ₁	24
	小学校3・4年生の部			25	25	25	25	25	25	23
	小学校5・6年生の部			22	22	23	24	24	24	24
	中学生の部			11	7	10	10	10	10 ₁	10 ₁
	総計									

今年度も、区立小・中学校全校から参加

1 中学生部門で私立中学校から各1校参加有

第9回「墨田区 図書館を使った調べる学習コンクール」各校出品作品一覧

部門	各賞	No	学校名	学年	氏名	作品名
小学生低学年（一・二年生）の部	金	5	二葉	2	小長井 花音	にているようで ぜんぜんちがう カタバミとクローバー
	銀	15	小梅	2	今村 光	なぞとき 回文のふしぎ
	銀	19	柳島	2	堀内 健太郎	しりたいカイ 貝から広がる ぼくの世界
	銅	7	錦糸	2	吉田 陽香	たべものは人をそだてる
	銅	8	錦糸	2	吉武 凜	せかいひろいぞ！ どうしてこんなに国があるの？
	銅	20	業平	1	大内 茉奈	しらべたら モオ～っと すきになったよ ギゆうにゆうとうし
	銅	21	業平	1	込山 藍里	なっとく！ わたしをげんきにする なっとうパワー
	銅	23	両国	1	初山 香都	まもろうよ！ ひょうしきとこうつうあんぜん
	銅	24	両国	2	齊藤 千隼	大相撲っておもしろい！
	銅	27	菊川	2	中村 俊道	もえないゴミはどこへ？
	銅	28	第三吾嬬	1	大関 優	しらす しらべ
	銅	31	第四吾嬬	2	江本 芹菜	ネコの耳が切られている!!わたしの好きなネコのひみつ
	銅	38	第三寺島	2	中川 幹太	石けんについて
	銅	39	曳舟	1	足立 春真	ぼくはチーターになる！
	銅	42	中川	2	島田 桜弥	赤ちゃんをまもる コウノトリ
	銅	45	東吾嬬	2	森 帆志恵	トマトは 8000
	銅	48	八広	1	宮越 瑠南	しらべてみた！さくらんぼって どんなくだもの？
	銅	52	立花吾嬬の森	2	矢野 悠真	くすりとはく クスリと人間の力はスゴイ！
	努力	2	緑	2	古田 早紀	どうしてクラゲは豎川にいるの？
	努力	6	錦糸	2	辻村 恭太郎	ぼくたちは どうやって大きくなった？すごいぞ！ 赤ちゃんの力
	努力	18	柳島	2	齋藤 珠希	モルモットと なかよくなるう
	努力	32	第四吾嬬	2	鈴木 環生	わたしと十三匹の子ねこ
	努力	40	曳舟	2	渡辺 那々子	ハーブのすごいふしぎけんきゅう
	努力	43	中川	2	森脇 優貴	おりがみ - 銅色のおりがみはあるの？ -
	努力	46	押上	1	中井川 市尚	ぼくは アリけんきゅういん
	努力	51	立花吾嬬の森	2	田嶋 俊輝	としきはトンボはかせ
	努力	53	梅若	1	上村 唯	ハリネズミが かいたい!!
小学生中学年（三・四年生）の部	金	62	八広	3	國近 絢子	まるまる ダンゴムシ
	銀	15	小梅	3	小森 日菜子	いいの？わるいの？教えて!!プラスチック ～地球のために私ができること～
	銀	74	立花吾嬬の森	4	来住 龍之介	ぼくが知らない 魚の体のしくみのなぞ
	銅	2	緑	4	宮本 理子	今年の冬こそ インフルエンザにかかりません言！
	銅	4	外手	3	佐藤 遼真	納豆って何？
	銅	5	外手	3	平丸 なつめ	みんなしってる？ 決の字はなぜさんずいなの？
	銅	7	二葉	3	住吉 祐亮	国蝶 オオムラサキを追って
	銅	9	二葉	4	小長井 凜	虹っておもしろい！ わたしは虹ハカセ！
	銅	18	柳島	3	茂手木 伶哉	大好き！ 抹茶スイーツ
	銅	26	両国	4	平山 涼一	エネルギーのひみつ ～ペンギン、シロクマにも関係あるの～
	銅	30	横川	3	米津 ナナ	ケーキが甘くなかったら、、、
	銅	31	横川	4	大塚 七緒	ポテトチップスが愛される理由
	銅	32	菊川	3	相原 麻緒実	知ってびっくり!! クラゲという生命体
	銅	45	第三寺島	3	島村 朋季	大切な歯と歯並び
	銅	47	第三寺島	4	川田 幹大	イカのこと しりたいか
	銅	48	曳舟	3	青柳 好透	キリンのけんきゅう所
	銅	49	曳舟	3	田中 愛莉	なぞがいっぱい!ハシピロコウ かわいくて さわりたい ハシさんのみりよく
	銅	59	押上	3	高橋 凜太郎	どうすれば 速く走ることができるのか??
	努力	1	緑	3	成住 しほり	しほりの Cloud Story
	努力	6	外手	4	中村 美南	家族の心を動かして!! 私はボメラニアンを飼いたい
	努力	23	両国	4	泉 綾乃	びっくり!錯視の世界
	努力	27	横川	3	杉田 夏美	本当はつながっている生き物の世界
	努力	28	横川	3	坂本 侑香	ペットボトルはどこへいく？
	努力	44	第一寺島	4	木原 麻菜香	ミステリー ヤゴの変身
	努力	54	東吾嬬	3	小貫 凜音	犬の鼻を大調査
	努力	58	押上	3	内林 才結	大切なしげん PETボトル
	努力	73	立花吾嬬の森	3	渡邊 結音	牛からもらった宝物 牛にゅう

小学生高学年（五・六年生）の部	金	73	梅若	5	大森 花音	わ...脇役だけど さ...さりげなく び...美味！
	銀	1	緑	5	鈴木 貴久	音だけで伝える ラジオ
	銀	18	中和	6	山本 龍	トイレッ！ ～激臭から無臭へ～
	銅	2	緑	5	松本 仁実	あなたは 糖質制限する しない？
	銅	3	緑	6	石江 桜子	便利だけど実は怖い... かしく使おう！スマホ
	銅	4	緑	6	渡辺 莉音	おいしいだけじゃない!!日本のスーパーフード 梅
	銅	6	外手	6	伊藤 万佑子	ゆりの花を咲かせたい！
	銅	10	二葉	6	上野 文六	1964 東京オリンピック ～未来につなぐ思い出～
	銅	27	柳島	5	茂手木 香凜	もう夏なんてこわくない！クールスポット大研究
	銅	36	菊川	5	廣澤 里麻	まっちゃんについて知りたい!!
	銅	37	菊川	6	庄子 大皓	知ってビックリ ユニフォーム大辞典
	銅	39	第三吾孺	5	中島 梨穂子	おじぞうさん、 何しているんですか？
	銅	55	第三寺島	6	福光 花蓮	海はごみ箱じゃない！海洋プラスチック問題
	銅	56	曳舟	5	足立 雅香	髪とヘアドネーション
	銅	57	曳舟	5	渡辺 瑛太	もっと知りたい！納豆大研究
	銅	58	曳舟	6	堀江 遥翔	世界を変えた 自動車の世界
	銅	62	東吾孺	5	鈴木 楓果	きれいな夕焼けが見たい！空の色のしくみ
	銅	65	押上	5	松岡 愛莉	テニス
	努力	8	二葉	5	新屋 来人	海のにん者 おそろべし
	努力	11	二葉	6	榊 泉凜	紙がなければ
	努力	16	中和	5	齋藤 信	色の不思議 ～ぼくの赤とあなたの赤は同じ赤ですか？～
	努力	23	言問	6	杉本 心宙	—ぼくたちは何を学ぶのか—小学校のプログラミング教育
	努力	38	第三吾孺	5	小木 結愛	天気予報のひみつ
	努力	40	第三吾孺	6	庄司 琴音	双子と赤ちゃん時代
	努力	47	第一寺島	5	矢口 笑那	let'sホテル大研究!! ～ホテルの不思議～
	努力	67	押上	6	新田 芽生	STOP!!地球温暖化～地球温暖化問題について～
	努力	70	立花吾孺の森	5	門脇 駿	オリンピックをもっと楽しむために ～ドーピングについて調べよう～
中学生の部	金	36	寺島	3	小野 桜子	輝け！Ohさんば
	銀	10	両国	1	坂本 弥優	脳がだまされる ～世界は錯視であふれてる～
	銀	54	国府台女子学院中学部	2	田中 萌唯	白物家電のゆくえ - 地球環境と循環型社会 -
	銅	2	本所	1	井原 くるみ	真空
	銅	4	本所	1	船生 ののか	ようこそ靴と足の世界へ
	銅	7	本所	1	米津 アンナ	身近なエコ
	銅	18	豎川	3	佐々木 恋	多数決～ものごとの決め方～
	銅	19	豎川	3	本間 詩織	睡眠と心身の関係
	銅	32	寺島	1	野澤 芽衣	殺処分について
	銅	37	文花	2	大塚 幸	熱中症～本当は怖い熱中症を防ぐために～
	銅	40	文花	2	山川 果穂	パンと発酵の秘密
	銅	41	文花	2	渡邊 智貴	どうする？海のプラスチック
	銅	49	吾孺立花	1	大津山 周	なぜ「三国志」の英雄は人を惹きつけるのか？
	努力	5	本所	1	宮崎 由羽	わたしたちの星「地球」の現在・過去・未来～地球温暖化を考えよう～
	努力	8	両国	1	秋田 虹介	ゴミのない河川へ
	努力	9	両国	1	阿野 心音	地下に潜って宇宙を知る ～スーパーカミオカンデの謎を暴け!～
	努力	34	寺島	1	堀江 結人	塩の事について知りたい
	努力	39	文花	2	田中 美波	私達の身近にある皮膚のなぞ
	努力	50	吾孺立花	1	大西 悠生	美味しいだけじゃない！チーズの力

墨田区登録無形文化財技術保持者の死亡に伴う感謝状贈呈について

1 要旨

本年10月27日に死亡した墨田区登録無形文化財技術保持者に対して、永年にわたり墨田区の文化財の保護及び普及に寄与した功績を称えるため、墨田区教育委員会感謝状交付基準要綱第2条第3号及び同要綱細目基準第13の規定に基づき、感謝状を贈呈したので報告する。

2 種別

登録無形文化財認定技術保持者に対する感謝

3 授賞対象者

墨田区登録無形文化財（工芸技術） 甲羅細工（べっ甲工芸）

磯貝 一 （いそがい はじめ）

4 登録期間

登録年月日：平成14年5月29日

解除年月日：令和元年10月27日

（登録期間 17年4か月）